

令和8(2026)年度 入学〔28期生〕

講義概要 (シラバス)

学校法人 行岡保健衛生学園

行岡医学技術専門学校

看護第1学科

学科目	国文学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	荒井 真理亜					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的と目標</p> <p>国文学の世界に触れることは、日本の文化や社会を知り、他者への理解を深め、現代を生きる自分自身を考えることにつながる。</p> <p>本授業では、日本文学や日本語について学びながら、看護はもちろん、社会生活に必要な話す力・聴く力・書く力・読む力を身につけることである。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter1 1.「読む」こと「書く」ことの基本 2. Chapter1 2. 看護師は多くの人と情報を共有する 3. Chapter1 3. 看護学生と「読む」こと「書く」ことに関連 4. Chapter1 1. 看護における「読む」ことの重要性 5. Chapter1 2. 文章を「読む」視点 6. Chapter1 3. 看護学生の「読む力」を伸ばすには 7. Chapter1 4. 「読む」レッスン 8. Chapter1 5. 看護学生のためのブックガイド 9. Chapter1 1. 看護における「書く」ことの重要性 10. Chapter1 2. 文章を「書く」視点 11. Chapter1 3. 看護学生の「書く力」を伸ばすには 12. Chapter1 4. 「書く」レッスン 13. Chapter1 1. 「読む」ことと「書く」ことの循環 14. Chapter1 2. 「要約」について 15. 終講試験 							講義
評価方法： 終講試験							
<p>テキスト： 編著 田中 美穂「看護学生のための基礎からはじめる国語ドリル」</p> <p>出版社 メヂカルフレンド社</p>							
講師紹介： 相愛大学人文学部准教授。専門分野は日本近代文学							

学科目	論理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	梅本 裕					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>看護職者に必要な論理的思考を育成する。論理的思考の定型を身につける。</p> <p>目 標</p> <p>「論理学」は看護職者に必要な論理的思考を育成することを目標とする。今日、看護職者には従来に比して高度な判断能力とコミュニケーション能力が求められている。この能力の基礎をなすのが論理的思考能力である。この科目では、作文やディベートによって日常言語の読み書き能力を高めることによって、受講生のことばに対する感受性を高めるとともに、論理的思考の定型を身につけられるようにする。授業内容の骨格は以下の通り。授業は講師による講義と受講者による課題演習を組み合わせで行う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ看護職者に論理的思考が求められるのか 2. 日常言語における論理と論理的思考の特徴 3. 論理的な文章の特徴 4. 論理的な文章を書く（その1） 一文一義の文体 5. 論理的な文書を書く（その2） 接続のことばへの注目 6. 論理的な文章を書く（その3） 段落の構成 7. 論評文を書く（その1） 引用の方法 8. 論評文を書く（その2） 反論の定型 9. 論評文を書く（その3） 論理の精微化 10. ディベート演習（その1） 立論の書き方 11. ディベート演習（その2） 質疑の方法 12. ディベート演習（その3） 反駁の方法 13. ディベート演習（その4） 判定の論理 14. 論理的思考をさらに高める自己研修の方法 15. 終講試験 							講 義 と 課題演習
評価方法：授業中の提出物（50％）と 終講試験（50％）							
テキスト：宇佐美寛『論理的思考』メヂカルフレンド社							
講師紹介：京都橘大学教授、専門分野：教育方法学、教育課程論							

学科目	教育学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	宇田 智佳					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>対人援助の専門家として、人権保障の観点から、人々が抱える困難と環境の連関を学ぶことをねらいとする。また、学び続けること、他者の立場を想像し続けることの重要性について理解を深める。</p> <p>目標</p> <p>「対人援助職」の点で看護と教育は共通する側面を有する。社会課題が噴出する現在、どのような課題があり、自身はどのように向き合うのかについて思索し続けることが求められている。そこで、教育学の基礎的教養を身につけながら、人々の抱える困難を客観的に捉え理解する力を身につける。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション -看護師と教育学- 2. 教育とは何か -教育の意義と役割- 3. 教育とは何か -教育の歴史①- 4. 教育とは何か -教育の歴史②- 5. 教育と福祉 -教えることとケアすること- 6. テーマ学習①貧困 7. テーマ学習②外国人 8. テーマ学習②ジェンダー 9. テーマ学習③障害 10. テーマ学習④家族 11. テーマ学習⑤学校に通えないこと 12. グループワーク①-テーマを選び、発表する 13. グループワーク②-テーマを選び、発表する 14. ふりかえり 15. 終講試験 							<p>講義</p> <p>個人 ワーク</p> <p>グループ ワーク</p> <p>映像資料</p>
評価方法：授業内外レポート60点、終講試験40点							
テキスト：講義で配布する資料を教材とする。参考図書は随時紹介する。							
<p>講師紹介：マイノリティの視点から教育をどう考えていくかという研究をしています。</p> <p>教育を環境から考えていくこの講義を通して、さまざまな視点から人とのつながりや援助を考えていってもらえれば嬉しいです。 大阪大学大学院人間科学研究科</p>							

学科目	情報科学 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	河野 富有					学期	1 年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 情報化社会における情報処理の基本的な考え方、処理方法を理解させ、コンピュータによる処理方法を看護活動に活かすことができるようにする。</p> <p>目 標 文書処理ソフト Word を使った報告書の作成方法と、表計算ソフト Excel を使った統計処理方法を修得する。</p> <p>授業計画 【14 回 講義により修得する。】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基本構成 2. 基本ソフトと応用ソフト 3. 医療情報システムとセキュリティ対策 4. Windows10 の基礎 起動と終了。アプリケーションソフトの基本操作。 複数のアプリケーションソフトの起動。 5. Word の基本操作 日本語入力システムの設定。文字や文章の入力・訂正。特殊な入力方法。 文書の保存と読込、印刷、複写・削除・移動。 6. Excel の基本操作 データ入力操作。基本的なワークシートの編集。ワークシートの書式設定。 関数の利用。データベース機能。データの集計。 7. Excel によるグラフの作成方法 グラフの作成。グラフの設定変更。 8. 統計処理 度数分布、分散、標準偏差、t 検定、カイ二乗検定。 9. 課題演習 Word、Excel の実習を行い、結果を印刷やファイルにて提出。 <p>15. 終講試験 講義内容の理解度を確認する。 Word と Excel が各自で利用可能であるかを評価する。</p>							講 義
評価方法：提出物 20 点 終講試験 80 点							演 習
テキスト：30 時間でマスター Windows10 対応 Word&Excel 2016 実教出版 他 教材プリント							
講師紹介：各企業や高校・医療従事者へのセミナー・研修講師として活躍中							

学科目	情報科学Ⅱ	単位数	1	時間数	15	科目区分	基礎分野
講師名	河野 富有					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>今日の情報化社会ではコンピュータを使って、収集した豊富な情報・研究成果について発表する機会が増大している。収集した情報を取りまとめ、コンピュータを使って表現する方法の基本を習得させ、看護活動で活かせるようにする。</p> <p>目標</p> <p>プレゼンテーションソフト Power Point の基本操作を理解させると共に、情報の表現方法を修得させ、今後の学習活動に活かせるようにする。</p> <p>授業計画【7回講義により修得する。】</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> Power Point の基本操作 プレゼンテーションの概要説明。PowerPoint の基本的な事項を説明。 文字入力を中心とした複数のスライドの作成を行い、スライド編集方法の基本をマスターする。 Power Point による情報の表現方法 スライド作成・編集時に利用する各種機能を、実際にプレゼンテーション資料を作成しマスターする。 Word や Excel で作成した情報の統合化 作成したプレゼンテーション資料をブラッシュアップ(磨き上げる)する。 グラフと図形の挿入、EXCEL グラフや SmartArt の利用。 課題演習 プレゼンテーションの実習を行い、結果を印刷やファイルにて提出。 <p>7.5 終講試験</p>							講 義
評価方法：提出物 20 点 終講試験 80 点							
テキスト：30 時間でマスター Windows10 対応 Word&Excel 2016 実教出版 他 教材プリント							
講師紹介：各企業や高校・医療従事者へのセミナー・研修講師として活躍中							

学科目	医学英語 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	階堂 暎子					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 医療現場での国際化に対応できる英語力を養う準備として、看護分野に関連した語彙を使いながら増やしていき、簡単な英語でのやり取りの一定の定着を目指す。</p> <p>目標 基本的な文法を復習し、平易な英語でのやりとりがある程度できる。医療で役立つ基本的な語彙を認識し、ある程度使えるようになる。</p> <p>授業計画</p> <p>1～3回目： ユニット2～3：問診／診療科の語彙・病院内の施設案内</p> <p>4～6回目： ユニット4、6：入院の案内・指示・申し出る表現／症状の表現</p> <p>7～9回目： ユニット7～8：体の部位の語彙・過去の出来事の説明／臓器の語彙・体調</p> <p>10～12回目： ユニット9～10：病歴・経験の説明／投薬・頻度の表現</p> <p>13～14回目：まとめと復習</p> <p>15回目：終講試験</p>							講義
評価方法：小テスト、平常点、終講試験							
<p>テキスト：Check-Up! -Basic English for Nursing 「基礎から学ぶやさしい看護英語」樋口晶彦 John Tremarco 著 金星堂 2023年 ISBN 978-4-7647-4184-3 C1082</p>							
<p>講師紹介 平成9年4月 英国ランカスター大学 言語学と現代英語学部 修士課程 平成17年『現代英語談話会論集』1号「Griceの協調の原則とウソの境界」 平成15年～関西学院大学 英語講師。 平成11年4月～当校 英語 担当</p>							
備考：学習状況を考慮し、随時進度や内容を調整することがある。							

学科目	医学英語Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	浅田 忠					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>【目的】国際化に対応できる英語力を養う準備として看護分野に関連した英語の語彙や文章に取り組む学習及び医学と医療における基礎的な英文カルテ用語の習得並びに外国人患者さんとの簡単な臨床英会話能力を身につける。</p> <p>【目標】英語学を習得することにより、外国人患者さんとの文化と習慣の違いを理解し、各人の気持ちを分かち合いながら豊かな感性を育む。 また、医療現場においては簡単な英語でのやりとりは随時復習を重ねて、多種多様な場面に対応できる一定の英会話コミュニケーション能力を培う。</p> <p>【授業計画】</p> <p>Chapter 1: Welcoming a Patient & 古典学術式医学英用語の説明</p> <p>Chapter 2: Taking Vital Signs & Material YM 体表</p> <p>Chapter 3: Pain Assessment & Material YM 骨</p> <p>Chapter 4: Feeling So Sick! & Material YM 筋</p> <p>Chapter 5: Transferring a Patient & Material YM 免疫システム</p> <p>Chapter 6: Medical Departments & Material YM 内臓</p> <p>Chapter 7: Review & Medical Terminology & Material YM 主な学術式医学英用語</p> <p>Chapter 8: Personal Care & Material YM 英米式医学英用語</p> <p>Chapter 9: Giving Medication to a Patient & Material YM 眼科</p> <p>Chapter 10: Elimination (Bowel movement / Urination) & Material YM 泌尿器科</p> <p>Chapter 11: Chronic Diseases & Material YM Material YM 心身医療</p> <p>Chapter 12: Critical Care / Operating Room & 英文カルテ(Medical Record)</p> <p>Chapter 13: Pregnancy Check-up & Material YM 婦人科とその疾患</p> <p>Chapter 14: Reading by NEW CONNECTION 3 & 英文カルテ(Medical Record)</p> <p>Chapter 15: 終講試験対策への復習と要点 & 終講筆記試験</p>							講義
評価方法：終講試験(講義内における英文カルテ作成実施点を含める)							
<p>テキスト：Talking with Your Patients in English 2 アニメで学ぶ看護英語 2</p> <p>著者：平野 美津子 Christine D. Kuramoto 落合 亮太 発行者：佐野 英一郎</p> <p>出版社：成美堂</p>							
<p>講師紹介：象山院院長「鍼灸院・四柱推命・医学英語研究会」 専門学校(医学・医療系学科)「医学英語」「英語」担当</p>							
備考：学習状況を見て、随時進度や選択するチャプター(Chapter)を調整する。							

学科目	社会学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	笹部 建					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 社会の構造、機能、個人と社会の関係・家族・集団・文化について学び、社会的存在としての人間を理解する基礎とする。</p> <p>目標 「社会学」と呼ばれる学問の基礎的な知識の習得を目的とし、それらをもとに現代社会の諸問題に対する考え方や、看護の現場における実践的な知識への応用が可能となるような方法論・知的態度などを身につけることを目指す。</p> <p>授業計画 ※受講者の理解度によって変更の可能性あり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション～社会学とはどんな学問か～ 2. 社会学の理論～機能主義という考え方～ 3. 社会学の調査～計量研究と事例研究のちがい～ 4. 自己とコミュニケーション～「自分らしさ」を作り上げること～ 5. 会話と言語～無意識のなかの規則と秩序～ 6. 結婚と仕事～ライフコースの多様性～ 7. 家族とコミュニティ～少子高齢化の諸問題～ 8. 教育とスポーツ～社会の中の再生産～ 9. 文化と消費～趣味と流行のフラット化～ 10. 差別と排除～ハラスメントと嫌がらせ防止のために～ 11. メディアとテクノロジー①～世論形成とジャーナリズム～ 12. メディアとテクノロジー②～情報技術とリスク管理～ 13. 医療と看護～専門職としての歴史と現場の中の社会問題～ 14. まとめ～再び、社会学とはどんな学問か～ 15. 終講試験 							講義
<p>評価方法：終講試験</p> <p>※授業で配布した資料、および自身で用意したノートやメモのみ持ち込み可とする。</p>							
<p>テキスト：なし</p> <p>資料 参考資料は、授業中に指示する</p>							
<p>参 考：系統看護学講座 基礎分野 社会学 第7版 医学書院</p>							
<p>講師紹介：関西学院大学、桃山学院大学に勤務、社会学部の演習授業を担当。専攻はメディア研究、文化社会学。NHKのアーカイブ研究などの経験をもとに社会学のトピックを広く話します。</p>							

学科目	倫理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	桑原 英之					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>医療・福祉の現場では生死に関わる難しい問題が山積魅しており、正しく判断するには倫理的視点が不可欠である。本講義では、医療者・患者・家族等様々な視点に立ちながら、現行の法・ガイドラインに関する正しい事実認識と基礎知識を踏まえつつ、倫理的に自ら考える力を養うことを目標とする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。 2) 倫理的課題を分析するために「参照すべき手がかり」を見つけられる。 3) 倫理的課題の解決のために「何をなすべきか」を考えられる。 <p>授業計画:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: 倫理学とは何か。 2. 生命倫理・医療倫理の歴史的背景 3. 自己決定権の問題: 輸血拒否事案から大人と子供の自己決定を考える 4. 自己決定と個人の価値観: 生死をめぐる宗教的価値観や死生観 5. 自己決定と死 1: 安楽死・尊厳死の定義と分類 6. 自己決定と死 2: 安楽死・尊厳死の裁判事例とガイドライン 7. 重症新生児治療の停止 1: ベビーDo 事件と日本の事例 8. 重症新生児治療の停止 2: 重症新生児の治療をめぐるルール 9. 生命操作の問題 1: ART の分類と共通する一般的問題点 10. 生命操作の問題 2: ART 個別の問題点と根本的倫理的問題点 11. 生命選択の問題 1: 出生前診断と選択的中絶をめぐる法とガイドライン 12. 生命選択の問題 2: 出生前診断と選択的中絶の倫理的問題 13. 脳死と臓器移植: 移植医療の倫理的問題点 14. 残されたものへのケアと尊厳: 弔いの倫理 まとめ 15. 終講試験 							
評価方法 : 終講試験							
テキスト : 系統看護学講座 看護倫理」第3版 医学書院 プリント							
講師紹介 : 近畿大学他 非常勤講師 (専門分野 : 倫理学、臨床哲学)							

学科目	心理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	岩下 美穂					学期	1年次前期
科目目標・内容							方法
<p>目的：この授業では、人間の心の働き、行動の背景にある原理を学び、人間の精神的側面の理解を深めること、同時にそれらの知見をもとに医療現場において看護師として他者と関わっていく「自分」についての理解を深めることを目指したい。あわせて、日常生活の中で人と関わる際にその知識・理解を有効に活用できることも目指していきたい。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的な知識や考えを理解し、日常生活においても活用できるようになる 2. 自分とは異なる人について論理的・科学的にその心や多様なあり方を理解できる 3. 心理学の知見を元に、適切な援助のあり方について考えることができるようになる <p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは — 対人援助と心理学 2. 外界を知る働き — 感覚・知覚 3. 覚える仕組み — 記憶・注意 4. 「学ぶ」とは — 学習の理論 5. 効果的に学ぶために — メタ認知とスキーマ 6. 「やる気」はどこから来るのか — 動機づけ 7. 自分に気づく — 「私マップ」作成 8. 「心の健康」とは — ストレスとカウンセリング 9. 発達(1) — 発達を支える環境 10. 発達(2) — 発達段階と発達課題 11. 定型発達の様子(1) — 胎児期・乳児期 12. 定型発達の様子(2) — 幼児期・児童期・青年期 13. 定型発達の様子(3) — 成人期・高齢期 14. 神経発達症の理解と援助 15. 終講試験 							<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>ワーク</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：『系統看護学講座 基礎分野 心理学』第6版 医学書院</p> <p>参考文献：『対人援助と心のケアに活かす心理学』鈴木 伸一編著 有斐閣</p>							
<p>講師紹介：現在は京都女子大学や看護学校等で心理学関係の講義を担当しています。</p> <p>行岡では他に歯科衛生科、鍼灸科、臨床検査科でも「心理学」を担当させていただいています。</p>							

学科目	人間関係論	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	岩下 美穂					学期	1年次後期
科目目標・内容							方法
<p>目的： 人と人との関係、個人と集団との関係、社会・文化の中の個人について、主に社会心理学的な側面からのアプローチを行う。</p> <p>目標： 人はグループになったとき、ひとりでいるときとはまた別の自分になっている。集団の中で影響され続ける人間のありようについて考えられるようになること。</p> <p>授業計画：</p> <p>I 人と人との関係 好きと嫌いの心理学 「人の想いは複雑か単純か？」</p> <p>①対人関係とソーシャル・スキル ②表情・微笑み 「第一印象」「笑顔に 笑顔が集まる」 ③共依存 デートDV 「ラスト・フレンズ」より ④共依存 DV 「何故逃げないのか」 ⑤虐待 母親の落とし穴「坂の途中の家」より ⑥もう一つの虐待・代理によるミュンヒハウゼン症候群 「乳児院」</p> <p>II 集団と個人 状況が人を動かす・人が人を動かす 「赤信号みんなで渡れば怖くない？」</p> <p>⑦状況の力 <他者の影響1> 「状況の力」「海上自衛隊」 ⑧傍観者効果 「キティー・ジェノベーゼ事件」</p> <p>III 集団と集団 規範・偏見・主観的現実 「ウチの常識は世間の非常識？」</p> <p>⑨集団決定・集団思考 「失敗の研究 ビルマ・インパール作戦」 ⑩社会的現実性の構築 マインドコントロール、カルト・マインドコントロール <他者の影響2> 「社会的現実性の構築」 <態度変容> 「オウム真理教の手口」「オウム地下鉄サリン事件」</p>							講義

IV 医療現場の人間関係

「感情労働の悲喜こもごも」

⑪災害と看護

<災害・緊急時>「白衣の天使が微笑んだ」(六甲アイランド病院、甲南病院、労災病院)

⑫危機管理「医療事故」(自治医科大学病院、阪南病院)

⑬精神科病棟の人間関係「思春期精神科病棟」(カメリア病院)

⑭小児病棟の人間関係「小さな勇士たち」(聖路加国際病院)

⑮終講試験

評価方法：終講試験＋小レポートを100点満点で換算調整して総合評価とする。

テキスト：なし

参考文献：『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』第3版 医学書院
その他授業時に適宜紹介する

講師紹介：京都女子大学 他 非常勤講師

学科目	カウンセリング理論と技法	単位数	1	時間数	30	科目区分	基礎分野
講師名	友野 伸一					学期	1 年次後期
科目目標・内容							方法
<p>【目的】 本科目は、前期で学んだ「心理学」(基礎心理学)の応用分野(応用心理学)である。「心理学」で学んだ基礎理論を基に、対人援助の実践に応用した理論と技法を学ぶ。</p> <p>【目標】 対人援助の実践は、サイエンス(science)であると同時にアート(art)でもある、とされる。対人援助の専門職を目指す者として、人間についての理解を深め、カウンセリングの理論及び技法を学ぶ意義を認識する。目標としては、本科目で学んだ知見を専門職として将来どう活かしていくか、自ら考えて実践していけるようになることを目指す。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カウンセラーの基本的態度 1 3. カウンセラーの基本的態度 2 4. カウンセラーの基本的態度 3 5. 「カウンセリング」とは 1 6. 「カウンセリング」とは 2 7. 「カウンセリング」とは 3 8. カウンセリングの歴史 1 9. カウンセリングの歴史 2 10. カウンセリングの歴史 3 11. 心理療法 1 12. 心理療法 2 13. 心理療法 3 14. 心理療法 4 15. 終講試験 							講義 ワーク
評価方法: 終講試験(レポート提出)50 点、提出物 25 点、ワーク 25 点							
<p>テキスト: 『メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法』 山蔦圭輔, 南山堂(2022)</p> <p>参考図書: (以下、過去のテキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術』志自岐ら(編), メディカ出版(2019) ・『Next 教科書シリーズ 心理学』和田(編), 弘文堂(2017) ・『改訂版 精神保健の基礎と実際』米山・辻(編著), 文化書房博文社(2010) ・『看護にいかすカウンセリング』白井幸子, 医学書院(1987) ・『はじめての臨床心理学』森谷・竹松(編著), 北樹出版(1996) 							
講師紹介: 主に大学において、臨床及び教育、研究に従事してきた							
備 考 : 適宜、机椅子を取り除いた状態でワークを行う。各自で予めクリップボードを準備しておくこと(100 円ショップのもので構わない)							

学科目	家族論	単位数	1	時間数	15	科目区分	基礎分野
講師名	笹部 建					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的・目標</p> <p>「現代」の社会における家族の内実をより詳細に論じるためには、まずもって家族の「歴史」について、その深度と複雑さを学ぶことが肝要となる。</p> <p>家族の機能や構造が、社会に対して／または個人に対して、どのような役割を担ってきたのかを、地域ごと、時代ごとの個別具体性を損なわずに把握することが前半の目標となる。</p> <p>授業の後半では、現代の家族像の変化とその要因を明らかにしていき、これからの(=未来の)家族の在り方を模索し、いくらかの道筋を立てていくことが目指される。</p> <p>授業計画</p> <p>各回で個別テーマを設け、前後で関連性を持たせながら進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の定義・機能・類型・構造 2. 家族の歴史 3. 家族と社会階層 4. 家族と国家 5. 家族と差別 6. 家族と福祉 7. 家族とグローバル化 <p>7.5 終講試験</p>							<p>講義形式</p> <p>教室で印刷物を配布し、その画像をプロジェクタで表示しながら授業を行う。</p> <p>回によっては映像資料やグループワーク用資料を適宜使用し、ゲストスピーカーに来てもらうこともある。</p>
評価方法：授業内課題 30点 終講試験 70点							
<p>テキスト：『系統看護学講座 別巻 家族看護学』第2版 2024年改訂 医学書院</p> <p>参考図書：A. ギデンズ、1995年『親密性の変容』而立書房</p> <p>筒井淳也、2016年『結婚と家族のこれから：共働き社会の限界』光文社</p> <p>U. ベックほか、2014年『愛は遠く離れて：グローバル時代の「家族」のかたち』岩波書店</p> <p>※その他、参考図書は授業時に配布資料での引用等を通じて適宜指示していく。</p>							
<p>講師紹介 行岡では2015年から「社会学入門」の講義を担当してきました。専門は文化社会学、メディア研究。最近は大阪市内でまちづくりにも関わっており、地域で貧困世帯や片親世帯、外国人家庭のために子ども食堂や学習支援をされている方のお手伝いなどもやっています。</p>							

学科目	文化人類学	単位数	1	時間数	15	科目区分	基礎分野
講師名	熱田 典子					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人間が生存のためにそれぞれの地で行ってきた活動によって築き上げた文化と今の私たちとの関係を理解することによって、「人間」を文化より見る。そして、文化のつながりと人間の生存の在り方を考えることによって、「人間とは何か」を学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>「人間」との関りの中で、生活、生存、そして死について、文化をはじめとした様々な方向から考えることができる。またそのような視野を持つ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たち「人間」とは何か 2. 質的研究と文化人類学 3. 人生と宗教・通過儀礼 4. 家族そして食べること文化 5. 人間の健康と死 6. 7回目: ゲストスピーカーにより、アフリカやアジアの少数民族(ウイグル等)の文化について学ぶ& 小論文 <p>7.5 小論文</p>							<p>講義</p> <p>ゲストスピーカー</p>
評価方法 : 小論文 100 点							
<p>テキスト : 系統看護学講座 「文化人類学」第 4 版 医学書院</p> <p>参考図書 : 参考資料は都度プリント配布</p>							
<p>講師紹介 : アジア協会アジア友の会 副事務局長 大阪経済法科大学 客員研究員 大精協看護専門学校 文化人類学講師</p>							

学科目	解剖生理学 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	山ノ井 俊宏					学期	1 年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践に根拠づける。 人体、消化と吸収、呼吸器</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。教科書の I 章 解剖生理学のための基礎知識、2 章 栄養の消化と吸収、3 章 呼吸と血液の働きについて学ぶ。</p> <p>単元ごとに副読本のワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>1・2 1章 基礎知識 A形から見た人体：体表から触知する人体の構造、人体の構造と区分、人体の部位と器官</p> <p>3・4 1章 基礎知識 B素材からみた人体：細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギー生成、細胞膜の構造と機能</p> <p>5・6 1章 基礎知識 B素材からみた人体：細胞の増殖と染色体、分化した細胞が作る組織、C：機能からみた人体</p> <p>7・8 2章 栄養の消化と吸収：A 口・咽頭・食道の構造と機能 B 腹部消化管の構造と機能</p> <p>9・10 2章 栄養の消化と吸収：C 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 D 腹膜</p> <p>11・12 3章 呼吸と血液のはたらき：A 呼吸器の構造 B 呼吸</p> <p>13・14 3章 呼吸と血液のはたらき：C 血液</p> <p>15 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学、第 11 版 医学書院</p> <p>副読本：解剖生理学ワークブック 医学書院</p> <p>生体のしくみ 標準テキスト第 3 版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>							
講師紹介：大阪大学大学院 連合小児発達学研究所							

学科目	解剖生理学Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	山ノ井 俊宏					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践に根拠づける。 人体、消化と吸収、呼吸器</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。 教科書の4章 血液の循環とその調節 5章 体液の調節と尿、6章 内臓機能の調節について学ぶ。 単元ごとに副読本のワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>1・2 4章 血液の循環とその調節 : A 循環器系の構成 B 心臓の構造、 C 心臓の拍出機能</p> <p>3・4 4章 血液の循環とその調節 : D 末梢循環系の構造</p> <p>5・6 4章 血液の循環とその調節 : E 血液の循環の調節 F リンパとリンパ管</p> <p>7・8 5章 体液の調節と尿 : A 腎臓</p> <p>9・10 5章 B 排尿路、体液の調節</p> <p>11・12 6章 内臓機能の調節</p> <p>13・14 6章 内臓機能の調節</p> <p>15 終講試験</p>							講 義
評価方法 : 終講試験							
<p>テキスト : 系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学、第11版 医学書院</p> <p>副読本 : 解剖生理学ワークブック 医学書院</p> <p>生体のしくみ 標準テキスト第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>							
講師紹介 : 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所							

学科目	解剖生理学Ⅲ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	須崎 彩乃					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人体の構造、生命現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎とし看護実践に根拠づける。</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。教科書の7章 身体の支持と運動、8章 情報の受容と処理、の働きについて学ぶ。単元ごとに副読本のワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>1・2 7章 身体の支持と運動 A 骨格、B 骨の連結</p> <p>3・4 7章 身体の支持と運動 C 骨格筋 D 体幹の骨格と筋 E 上肢の骨格と筋</p> <p>5・6 7章 身体の支持と運動</p> <p>F 下肢の骨格と筋、G 頭頸部の骨格と筋、H 筋の収縮</p> <p>7・8 8章 情報の受容と処理</p> <p>A 神経系の構造と機能、B 脊髄と脳、C 脊髄神経と脳神経</p> <p>9・10 8章 情報の受容と処理</p> <p>D 脳の高次機能、E 運動機能と下行伝導路、</p> <p>F 感覚機能と上行伝導路</p> <p>11・12 8章 情報の受容と処理 G 眼の構造と視覚</p> <p>13・14 8章 情報の受容と処理 H 耳の構造と聴覚</p> <p>15 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験							
<p>テキスト : 系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版 医学書院</p> <p>解剖生理学ワークブック 医学書院</p> <p>生体のしくみ 標準テキスト第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター</p>							
講師紹介 : 大阪大学大学院 医療系研究科 修士課程在籍							

学科目	解剖生理学IV	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	須崎 彩乃					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人体の構造、生命の現象の機能について学び、健康障害を学ぶ基礎知識を身につける。</p> <p>目標</p> <p>「正常な人体の構造と機能」の知識を身につけ、疾病の成り立ちを考え理解できる。教科書の9章身体機能の防御と適応、10章生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。單元ごとに副読本のワークブックで知識・理解の確認を行う。</p> <p>授業計画【2コマ分ずつ記載】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 8章 情報の受容と処理 I 味覚と嗅覚、J 痛み 2. 9章 身体機能の防御と適応:A 皮膚の構造と機能 3. 9章 身体機能の防御と適応:B 生体の防御機能 4. 9章 身体機能の防御と適応:C 代謝と運動、D 体温とその調節 5. 10章 生殖・発生と老化のしくみ A 男性生殖器 6. B 女性生殖器 7. 10章 生殖・発生と老化のしくみ C 受精と胎児の発生、D 成長と老化 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学、第11版 医学書院							
副読本： 解剖生理学ワークブック 医学書院 生体のしくみ 標準テキスト第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター							
講師紹介： 大阪大学大学院医学研究科 修士課程在籍							

学科目	生化学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	折田 久美					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的・目標</p> <p>人体の構成成分である化学物質の性状、その分析、及び代謝について学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 糖質 3. 脂質 4. タンパク質 5. 核酸、水分、ミネラル 6. ホルモン 7. 酵素 8. ビタミンと補酵素 9. 糖代謝 10. 脂質代謝 11. コレステロール代謝 12. タンパク質代謝 13. 核酸代謝・ポルフィリン代謝 14. 遺伝情報 15. 総まとめ・国家試験門問題 							講義
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 人体と構造の機能〔2〕 生化学 第14版 医学書院							
<p>講師紹介： 大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学 医学博士</p> <p>講師の実績に基づき生化学研究の予備的な知識を与えるとともに、先端研究の一端も紹介する。</p>							

学科目	栄養学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	折田 久美					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的・目標</p> <p>人間の生命維持・成長に必要な栄養について学び、食事と健康の維持・回復との関係について理解を深める。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学と看護 2. 栄養状態の評価・判定(定義と目的) 3. 栄養状態の評価・判定法(臨床診査、身体計測、臨床検査、食事調査) 4. 栄養ケアマネージメント(栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、計画の実施とチェック、モニタリング、評価) 5. 糖質(栄養素としての役割と代謝) 6. 脂質(栄養素としての役割と代謝) 7. タンパク質(栄養素としての役割と代謝) 8. 栄養素の種類とはたらき タンパク質、ビタミン、ミネラル、水分 9. ライフステージと栄養 学童期、思春期・青年期、成人期、妊娠・授乳期、更年期、高齢期 10. 疾患別食事療法の実際(循環器疾患、消化器疾患) 11. 疾患別食事療法の実際(栄養・代謝疾患) 12. 疾患別食事療法の実際(腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患、骨粗鬆症、小児疾患、妊娠高血圧症候群) 13. 栄養素の消化・吸収 14. 食事摂取基準、栄養素の摂り方 総まとめ・国家試験問題 15. 終講試験 							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 人体の機能と構造[3]栄養学 第14版 2025年改訂 医学書院							
<p>講師紹介：大阪市立大学大学院医学研究所 皮膚病態学 医学博士</p> <p>講師の実務経験から食事内容と疾病との関係性に基づき、栄養学研究の予備的な知識を与えるとともに、実際の食事管理指導内容の一端も紹介する。</p>							

学科目	薬理学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	篠原 光子					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>薬理の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の取扱い、管理について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>疾病に対する診断・治療について基本的な知識を得る。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 薬理学とは、薬物について、薬物の作用機序、治療法など 2. 薬物の動態、薬理作用の変動など 3. 薬物の取扱い・管理、日本薬局方など 4. 薬物の連用・併用など 5. 薬物の副作用・併用など 6. 各論 中枢神経と薬 7. 末梢神経と薬 8. 痛みと薬 9. 炎症と抗炎症薬 10. 感染と薬 11. 血液と薬 12. 呼吸・循環系と薬 13. 消化器系と薬 14. 代謝と薬 悪性腫瘍と薬 15. 終講試験 							講義
評価方法： 終講試験							
<p>テキスト： 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進(3)薬理学 第15版 医学書院</p> <p>参考書 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 第2版 医学書院</p> <p>今日の治療薬</p>							
<p>講師紹介： 大阪歯科大学 薬理学講座 教授 平成25年3月31日</p> <p>平成11年～当科「薬理学」担当</p> <p>大学の薬理学講座に勤務し、学生の教育・研究にあたる。</p>							

学科目	微生物学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	浜田 茂幸					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的・目標</p> <p>微生物が生物界においてどのような位置を占め、自然界のどこにいて、生き物としてどのような生活をしているか、一方、微生物が人体内に侵入した後、体内でどのような反応や現象が起こり、感染から個体を防御しているか、さらに感染症と人間の社会との関係を理解する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物と微生物学 2. 細菌の性質 3. 真菌の性質 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質 6. 感染と感染症 7. 感染に対する生体防御機能 8. 感染源・感染経路からみた感染症 9. 感染症の予防 10. 感染症の診断 11. 感染症の治療 12. 病原細菌と細菌感染症 13. 病原真菌と真菌感染症 14. 病原原虫と原虫感染症 <li style="padding-left: 20px;">おもなウイルスとウイルス感染症 <li style="padding-left: 20px;">感染症の現状と対策 15. 終講試験 							講義
評価方法： 終講試験							
テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 第14版 医学書院							
講師紹介： 大阪大学名誉教授 大阪大学微生物研究所招聘教授 専門は病原細菌学							

学科目	病理学総論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	西村 美帆					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>病因と病変の特徴について理解する。</p> <p>目標</p> <p>疾病の要因と生体反応について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学とは、病因、病理 検査の基本 2. 細胞の障害と適応 3. 循環障害、臓器不全 4. 出血、炎症、免疫反応 5. 免疫細胞、免疫異常 6. 内分泌異常、代謝異常 7. 遺伝子異常、先天異常 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験							
テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 病理学 医学書院							
講師紹介 : WAGON 講師							

学科目	疾病治療論 I	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	仁科 昌久					学期	1 年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 循環器・呼吸器に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目標 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器概論(1) 呼吸器の構造と機能 2. 呼吸器概論(2) 同上 症状とその病態生理 3. 呼吸器概論(3) 症状とその病態生理、検査と治療 4. 呼吸器概論(4) 検査と治療、疾患の理解 感染症:かぜと急性気管支炎 5. 各論(2) 感染症:インフルエンザ、肺炎、結核 6. 各論(3) 間質性肺疾患:原因不明の間質性肺炎)、サルコイドーシス、好酸球性肺疾患、過敏性肺炎、塵肺、膠原病に伴う肺病変(間質性肺炎)、薬剤性肺炎、放射線肺炎 7. 呼吸器(4) 管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患、肺循環疾患:肺血栓塞栓症、肺高血圧症、呼吸不全、呼吸調節に関する疾患:過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、肺腫瘍:良性腫瘍、悪性腫瘍(原発性肺がん、転移性肺腫瘍)、肺・肺血管の形成異常、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移植、胸部外傷 8. 循環器概論(1) 循環器の構造と機能 9. 循環器概論(2) 症状とその病態生理 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、ショック 10. 循環器概論(3) 検査と治療 各論(1)疾患の理解 虚血性心疾患 11. 各論(2)心不全、血圧異常 12. 各論(3)不整脈 13. 各論(4)弁膜症、心膜炎 14. 各論(5)心筋疾患、肺性心、先天性心疾患、動脈系疾患、静脈系疾患、リンパ系疾患 15. 終講試験 							講 義
評価方法 : 終講試験 (呼吸器系 50 点、循環器系 50 点)							
<p>テキスト : 系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 第 16 版 医学書院</p> <p>成人看護学[3]循環器 第 16 版 医学書院 プリント</p>							
講師紹介 : 仁科医院 院長							

学科目	疾病治療論Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	村田 紀和 ・ 藤原 正昭					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>骨・筋系・脳神経系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする。</p> <p>目標</p> <p>各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画【骨・筋系】 15時間 講師:村田 紀和</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科の基礎 2. 外傷 3. 感染、変形性関節症、関節リウマチと類縁疾患 4. 結晶誘発性関節炎など 5. 代謝性骨疾患 6. 治療 7. その他の種々の疾患 7.5 終講試験 <p>【脳神経系】 15時間 講師:藤原 正昭</p> <p>授業計画</p> <p><u>臨床に必要な神経解剖・生理</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭部軟部組織 顔面の表情筋＝顔面神経支配 顔面の感覚 三叉神経血管(頭蓋軟部組織は外頸動脈が灌流) 頭蓋骨 頭蓋底 髄膜 神経細胞(ニューロン)と神経膠(グリア) シナプスと神経伝達物質 中枢神経系の臓器特殊性 2. 大脳新皮質と辺縁系 大脳基底核と錐体外路系 白質;内包、大脳脚、脳梁 間脳;視床と視床下部 視床下部・下垂体系 脳幹 小脳 脊髄 3. 脳室・くも膜下腔・脳脊髄液、脳動脈 脳静脈・静脈洞 脳の病態生理 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 髄膜刺激症状 4. <u>症候論</u>:頭痛 失語症 構音障害 失行と失認 運動麻痺 失調 不随意運動 けいれんとてんかん 筋萎縮 感覚障害 嚥下障害 排尿・排便障害 <u>検査・診断</u>: 神経学的診察 運動・感覚検査 脳神経検査 高次脳機能検査 <u>補助検査法</u>: 頭部単純X線撮影 CT スキャン MRI 脳血管撮影(DSA)、 SPECT,PET 脳波など 							講義

<p>5.6.7 疾患の理解</p> <p>脳血管障害:くも膜下出血 脳内出血 脳梗塞 脳腫瘍;神経膠腫と脳実質腫瘍 頭部外傷 脊髄疾患:脊髄血管障害 脊髄腫瘍 脊髄空洞症など 末梢神経障害;糖尿病性ニューロパチー ギラン/バレー症候群 単ニューロパチー 筋ジストロフィーなど筋疾患 脱髄・変性疾患 感染症 中毒 認知症 内科疾患に伴う神経疾患</p> <p>7.5 終講試験</p>	
<p>評価方法： 終講試験 国家試験に準ずる多肢選択試験 評価配分： 骨筋系 50 点 脳神経系 50 点</p>	
<p>テキスト： 系統看護学講座 成人看護学〔7〕 脳・神経 第 16 版 医学書院 成人看護学〔10〕 運動器 第 16 版 2025 年改訂 医学書院 他 資料 参考資料 病気がみえる 7 脳・神経 発行:メディックメディア</p>	
<p>講師紹介：</p> <p>村田紀和 行岡病院 整形外科医師 藤原正昭</p> <p>岡山大学大学院医学研究科にて神経化学(脳内アセチルコリン代謝)研究にて医学博士号取得。昭和 53 年より大阪厚生年金病院、大阪大学医学部附属病院脳神経外科にて脳神経外科臨床に従事し、昭和 58 年脳神経外科専門医となる。その後、市立豊中病院脳神経外科医長、行岡病院脳神経外科部長、医誠会病院部長など経て、平成 20 年より行岡保健衛生学園顧問。行岡病院にて中枢神経疾患のリハビリテーション臨床に従事。病院での診療にかかわりつつ昭和 61 年より行岡理学療法専門学校(現 大阪行岡医療大学医療学部)はじめ行岡保健衛生学園の看護専門学校、柔道整復師専門学校、鍼灸専門学校にても神経解剖・生理及び神経疾患の臨床系講義を担当。令和 5 年 4 月より介護老人保健施設管理医師。</p> <p>神経疾患の臨床を行うには基盤に神経解剖生理の知識が不可欠である。神経解剖・生理は複雑でむつかしいと思われるが、ひとつひとつの項目を理解して積み重ねればとても興味の湧くものである。しっかりとした基礎の上に正しい臨床経験を積めるように指導することを目指している。</p>	
<p>備考： 既習の解剖生理学 I ～IVを基盤とし、成人看護学、老年看護学の基礎となる科目である。</p>	

学科目	疾病治療論Ⅲ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	森 誠司 ・ 仁科 昌久					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 消化器系・内分泌系・代謝系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目 標 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画【消化器系】森 誠司 15時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器 構造 2. 消化器 機能・症状 3. 消化器 症状 検査 4. 検査・治療 5. 治療 疾患Ⅰ 6. 疾患Ⅱ 7. 疾患Ⅲ <p>7.5. 終講試験</p> <p>授業計画【内分泌・代謝系】仁科 昌久 15時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2. 内分泌概論①② 内分泌・代謝器官の構造と機能 3. 内分泌概論③ 症状とその病態生理 検査 各論① 疾患の理解 内分泌疾患 4. 各論② 視床下部-下垂体後葉系疾患 5. 各論③ 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 6. 各論④ 性腺疾患 膵・消化管神経内分泌腫瘍 多発性内分泌腫瘍症 内分泌疾患の救急治療 7. 各論⑤ 代謝疾患 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常 <p>7.5. 終講試験</p>							講 義
評価方法：終講試験（消化器 50点 内分泌・代謝 50点）							
<p>テキスト：消化器系 プリント</p> <p>内分泌・代謝系 系統看護学講座 成人看護学[5] 内分泌・代謝 第16版 医学書院</p> <p>参考書 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器 第16版 医学書院</p>							
<p>講師紹介：森 誠司 森ノ宮医療大学医療技術学部臨床検査学科 教授・副学科長 大阪大学大学院 医学研究科 教授</p> <p>仁科 昌久 仁科医院 院長</p>							

学科目	疾病治療論Ⅳ	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	松原 雄・遠藤 知美・石村拓也・大植薫 奥山 明彦					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 腎・泌尿器系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目 標 各疾患の病態と診断、治療について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <p>【腎系】 松原 雄・遠藤 知美・半田 貴也・宮内 美帆 8.5 時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓の構造と機能(東) 2. 急性腎不全・慢性腎不全(半田) 3. 腎炎とネフローゼ(遠藤) 4. 腎臓病の治療 (塚本) <p>終講試験</p> <p>【泌尿器系】 奥山明彦 6.5 時間</p> <p>授業計画</p> <p>1～3. 泌尿器科学、総論</p> <p>泌尿器とは、尿に学ぶ、患者さんから学ぶ泌尿器科の看護、構造と機能、症状と病態、検査と処置、泌尿器疾患と看護の特徴</p> <p>終講試験</p>							講 義
評価方法：終講試験（腎系 60 点 泌尿器 40 点）							
テキスト：系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第 16 版 医学書院 プリント							
講師紹介 腎 系：北野病院 腎臓内科医師 泌尿器系：高石藤井病院 医療安全支援教育センター長							
備 考：既習の解剖生理学Ⅰ～Ⅳを基盤とし、成人看護学・老年看護学の基礎となる科目である。							

学科目	疾病治療論V	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	山手 百合香・浜田 茂幸					学期	1年次後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>血液・造血器系・免疫系に障害があるときは全身にどのような影響があるのか、診断、治療、処置の一般的な内容、特殊な内容を理解する。</p> <p>目標 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解をする。</p> <p>【血液・造血器】 山手百合香 14.5 時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血球の種類と分化 2. 血液検査と異常値 3. 貧血の種類と病態 4. 貧血の種類と治療 5. 白血病の種類と病態 6. 白血病の検査・治療 7. 造血器移植治療など <p>7.5 終講試験</p> <p>【免疫・感染】 浜田茂幸 14.5 時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫のしくみとアレルギー（I型アレルギー） 2. アレルギーのしくみ 検査と治療 3. アレルギー症状と疾患の理解 4. アレルギー症状疾患の理解 免疫トランス 5. 膠原病 症状とその病態生理 6. 膠原病 検査と治療 関節リウマチ 7. 膠原病 症状と疾患の理解 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験（血液・造血器 50点 免疫・感染 50点）							
テキスト：系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器 第16版 医学書院 成人看護学[11]アレルギー 膠原病 感染症 第16版 2025年改訂 医学書院							
講師紹介 山手 百合香：大阪大学大学院医学系研究科 浜田 茂幸：大阪大学名誉教授、大阪大学微生物病研究所招聘教授							

学科目	疾病治療論VI	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	山手 百合香・折田 久美					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>感覚器系(眼・耳鼻咽喉・皮膚・歯・口腔)に障害があるときは身体にどのような影響があるのか、診断、治療・処置の一般的な内容、特殊な内容を理解し、看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠とする</p> <p>目標</p> <p>各疾患の病態と診断、治療について基本的な理解をする。</p> <p>【眼】山手 百合香 9時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼科総論 2. 看護を学ぶにあたって 3・4 検査と治療、疾患の理解 <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状とその病態生理(視機能に関連する症状・関連しない症状) 2. 検査・処置:眼底検査 3. 治療:眼底 光凝固療法、網膜剥離治療、眼内レンズ挿入術 4. 眼系の疾患の病態と診断・治療: <ol style="list-style-type: none"> a.視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)、中途視覚障害者 <p>【耳鼻咽喉】山手 百合香 6時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳・鼻疾患 2. 咽喉頭疾患 3. 難聴、めまい <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状とその病態生理(耳、鼻、口腔・唾液腺・咽頭、喉頭に現れる症状と病態生理) 2. 検査・処置:聴力検査、経鼻内視鏡検査、味覚検査 3. 治療:鼓室形成術、小線源治療 4. 疾患の理解(耳疾患、鼻疾患、口腔・咽喉頭疾患、気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害、難聴、音声ならびに嚥下障害、摂食・嚥下障害) <ol style="list-style-type: none"> 聴覚障害(難聴、Meniere<メニエール>病)、副鼻腔炎) 嗅覚・味覚障害 							講義

<p>【皮膚】折田 久美 8時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚構造、スキンケア、発疹 2. 老化、アトピー、熱傷、褥創 3. スクール、アレルギー、紅斑 4. 国家試験対策問題 <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状とその病態生理(発疹、掻痒(かゆみ)、皮膚の老化) 2. 検査と治療・処置 3. 皮膚疾患の理解(表在性皮膚疾患、真皮・皮下脂肪識及び皮膚付属器の疾患、脈管系の皮膚疾患、物理・化学的皮膚障害、腫瘍及び色素異常症、感染症、内臓疾患に伴う皮膚病変) <ul style="list-style-type: none"> d.皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩識炎) 4. スキンケア <p>【歯・口腔】山手 百合香 6時間</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の解剖、歯科疾患 2. 口腔外科疾患 3. 口腔外科疾患と口腔ケア <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状とその病態生理(口腔症状、顎口腔機能障害) 2. 検査と治療処置 3. 疾患の理解(歯の異常と疾患、歯周組織の疾患、齶蝕に続発する疾患、口腔粘膜の疾患、口腔領域の悪性腫瘍・口腔領域の先天異常及び発育異常、唾液線の疾患、舌の疾患) 4. 機能障害(咀嚼障害・嚥下障害) c.嗅覚・味覚障害 <p>【終講試験】0.5時間</p>	講義
<p>評価方法：終講試験(眼 25点 耳鼻咽喉 25点 皮膚 25点 歯・口腔 25点)</p>	
<p>テキスト：系統看護学講座 成人看護学[12] 皮膚 第16版 2025改訂 医学書院 成人看護学[13] 眼 第15版 2025改訂 医学書院 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 第15版 2025年改訂 医学書院 成人看護学[15] 歯・口腔 第14版 2025年改訂 医学書院</p>	
<p>講師紹介：山手 百合香 大阪大学大学院医学研究科 折田 久美 大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学 医学博士</p>	

学科目	臨床検査	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	新井 麻里・吉川 嘉寿浩・婦木 平良・森松 宏和					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>医療の変遷と役割を理解し、医療制度と今後の医療のあり方について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>医療の歴史と成立要件、現在の医療を取り巻く環境(患者の置かれている環境、医療制度、医療資源、医療スタッフ等)、疾患とその診断・治療について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学と医療、医療の歴史 2. 医療の対象 3. 医療の方法 4. 患者の置かれた環境—自然・生活環境、社会環境 5. 医療職、医療制度 6. 疾患の診断・治療 7. 現代医療の問題点 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験 新井 55点 吉川 15点 婦木 15点 森松 15点							
<p>テキスト：プリント</p> <p>系統看護学講座 臨床検査 第9版 医学書院</p> <p>臨床放射線学 第10版 医学書院</p>							
<p>講師紹介</p> <p>新井 麻里：大阪行岡医療専門学校長柄校 臨床検査科 臨床検査技師</p> <p>吉川 嘉寿浩：大阪行岡医療専門学校長柄校 放射線科 専任教員、診療放射線技師</p> <p>名田 克彦：大阪行岡医療専門学校長柄校 放射線科 専任教員、診療放射線技師、臨床工学技士</p> <p>森松 宏和：医療法人淀さんせん会金井病院 医療技術副部長 放射線技師</p> <p>大阪行岡医療専門学校長柄校 放射線科 非常勤講師</p>							

学科目	医療概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	行岡 正雄					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 医療の変遷と役割を理解し、医療制度と今後の医療のあり方について学ぶ。</p> <p>目標 医療の歴史と成立要件、現在の医療を取り巻く環境(患者の置かれている環境、医療制度、医療資源、医療スタッフ等)、疾患とその診断・治療について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学と医療、医療の歴史 2. 医療の対象 3. 医療の方法 4. 患者の置かれた環境—自然・生活環境、社会環境 5. 医療職、医療制度 6. 疾患の診断・治療 7. 現代医療の問題点 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験							
<p>テキスト : なし</p> <p>参考書 : 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[1]医療概論、医学書院.</p>							
<p>講師紹介 : 行岡病院 院長 行岡保健衛生学園 理事長 行岡医学技術専門学校 学校長</p>							

学科目	東洋健康科学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	西口 陽通					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的・目標 東洋医学の考えを知ることにより、人間の自然治癒力を高める必要性について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 東洋医学について 病と気について、痛みについて、病気というものの一見 日本昔話の中から東洋医学に親しむ日本の昔話、かぐや姫、ももたろう、一寸法師が意味するもの 肩こり腰痛は昔からあった。 首のコリ肩のコリは首を絞める？体の反応 水を垂らす処刑 手技療法について 看護に応用できるマッサージについて あん摩・マッサージ・指圧の違い、作用、指圧の三原則等 東洋医学的な健康管理 養生について・養生訓・生活習慣、衣食住気血水、陰陽五行理論 はり・きゅう施術について 定義、種類と作用、適応、注意等、 陰陽五行理論 経穴について、経路について ツボの取り方・主治 陰陽五行理論 関連学説について ストレス学説・デルマトーム関連痛、トリガーポイント、低周波治療 実技の準備について 準備するものを説明、注意事項、施術手順 あん摩実技&指圧の実技 上半身坐り揉み、脊柱1側線押圧 てぬぐい あん摩実技&指圧の実技(上半身) うつ伏せ、手、肩、背部の施術(てぬぐい、タルクを準備) あん摩実技&指圧の実技 上向きで施術、脚、顔、その他 はり・きゅう施術体験 円皮針、鍔鍼、集毛針等 テスト範囲復習 復習・まとめ 終講試験 							講義
評価方法：終講試験							演習
テキスト：プリント配布 参考書：東洋医学便覧 経絡経穴概論編 西口陽通著							
<p>講師の紹介：大阪行岡医療専門学校長柄校 鍼灸科教務主任、日頃は教員として「経絡経穴概論」「社会あはき学」を担当し、学校におります。大阪府鍼灸マッサージ師会員、全日本鍼灸学会の会員でもあります。鍼灸の臨床として行岡病院で週2日程度あん摩マッサージ指圧、はり、灸の施術を行っております。</p>							

学科目	公衆衛生学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	関口 敏彰					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>公衆衛生に関する統計情報について理解し、疾病構造の変化や高齢社会の中での組織的な保健活動、社会資源について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>公衆衛生に関する現状や法律にもとづく対策、統計などについて理解し、住民の健康増進として医療者に何が求められているのかを理解する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の基本 公衆衛生の歴史、領域と活動の特徴、健康の概念、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、社会保障の理念と制度 2. 健康の指標と疫学 人口構造、出生、死亡・死因、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率、疫学とエビデンス 3. 環境保健：環境破壊と健康影響、放射性物質、廃棄物、住環境、食品管理 4. 母子保健：母子保健法 5. 児童福祉：児童福祉法、少子化対策、児童虐待防止法、保健福祉の関連機関 6. 成人保健：生活習慣病の現状と予防、医療保険制度、飲酒と喫煙、特定健康査と特定保健指導、健康増進法、健康日本 21、がん対策 7. 高齢者保健：高齢者の世帯構成、介護保険制度、介護予防、高齢者虐待防止法 8. 精神保健：精神保健福祉法とその施策、精神障害者の医療と福祉、こころの健康対策と自殺対策 9. 障害者と難病保健：障害者基本法、障害者総合支援法、身体・知的・発達障害関する法と施策、難病法 10. 感染症保健：感染症の基本、主な感染症と動向、感染症法、予防接種 11. 学校保健：学校保健安全法、健康診断、感染症対策、学校環境衛生 12. 産業保健：労働安全衛生法、職業病の予防、作業環境管理、ワークライフバランス 13. 災害保健：災害医療、災害の種類と特徴、災害各期の支援 14. 国際保健：健康格差、国際協力活動と日本の役割、国際機関の役割、健康目標 15. 終講試験 							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生 第15版 医学書院							
講師紹介：行政保健師として勤務後、現在は森之宮医療大学にて公衆衛生看護学の授業・研究を担当。保健センターでの実務経験をもとに公衆衛生学について話をします。							

学科目	社会福祉学	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門基礎分野
講師名	前田 崇博					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師として必要となる社会福祉の法制度の基本的な知識や社会福祉援助技術の方法を学ぶ。 2. 社会福祉の知識を修得することにより、様々な領域で活躍できる能力を養う。 3. 患者や家族における多種多様な社会的問題・課題(社会保障・生活)にも向き合える看護師を目標とする。 <p>目標</p> <p>社会保障の理念、社会保険制度及び社会福祉に関する法や施策について基本的な理解をする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉3法 2. 地域包括、障害者福祉① 3. 社会福祉 援助技術 4. 介護保険 I 5. 介護保険 II 高齢者福祉 6. 援助技術 障害者福祉 7. 生活保護 児童条約 8. 児童福祉 低所得 9. 生活保護 10. 障害者福祉～地域福祉 11. 援助技術2 法制 12. 医療保険 年金 13. 総括 14. 総括 15. 終講試験 							講義
評価方法：終講試験 80 点 提出物 10 点、ワーク 10 点							
<p>テキスト：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 第26版 2025年改訂 医学書院</p> <p>備考：毎回、映像教材(ビデオ、DVD)や配布資料を活用します</p>							
<p>講師紹介：在宅介護支援センターのソーシャルワーカーの経験を活かして、社会保障制度全般を実践の視点から教えている。また、介護福祉士養成校の教員歴を活かして、社会福祉の法律制度、社会福祉援助等の看護師の国家試験対策として必要な知識とコミュニケーション技術をアクティブラーニングの方法で教えている。また、大阪市や神戸市の委嘱委員としての社会活動を通して社会福祉の課題や問題を提起している。</p>							

学科目	関係法規 I	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	新坂 幸大					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>(医療と法律)</p> <p>目的</p> <p>看護師の活動は多くの場合、法的規制に基づいて行われ、また、時には法的規制を受ける。そのため、看護専門職にとって関連法規の理解は必修条件となる。看護師、医療関係者の身分や医療に関する法、衛生行政諸法規を知ることにより、看護師の法的立場を理解する。</p> <p>目標</p> <p>人々の健康を守るための従事者に関する法や施策およびサービス提供体制について基本的な理解をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の活動に関連する諸法規の基本的知識を習得する。 2. 法律及び法体系の理解を深め、法的思考力を養成する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法とは 2. 医療法 3. 保健師助産師看護師法 4. 保健衛生法規、薬事法 5～6. 福祉関係法規、その他 7. 労働関係法規、環境法 <p>7.5 終講試験</p>							講 義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度 4 医学書院							
講師紹介：WAGON 専任講師							

学科目	関係法規Ⅱ	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門基礎分野
講師名	新坂 幸大					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>(看護と医療過誤)</p> <p>目的</p> <p>看護師が日常的に遭遇する、event incident accident について、患者(利用者、client)・その家族にとって、それが持つ意味を法的に及び倫理的に分析することで、その社会的立ち位置を認識する。また、特に医療過誤については、それによって生じる責任について社会的制裁も含めて考察する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 規律について(摂理と倫理と法の違い) 2. compliance と国家試験出題レベル英語 3. 医療現場での事故と看護師の義務 4. 医療現場での事故(過誤)と責任の類型 5. 事例演習Ⅰ 6. 事例演習Ⅱ 7. 学習のまとめ+終講試験対策 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度 4 医学書院							
講師紹介：WAGON 専任講師							

学科目	看護学概論	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	安齋 匡代					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 看護学の導入として看護の概念・看護の対象・看護の機能と役割および歴史について学ぶ。さらに、専門職としての倫理観と知識・技術をもち、保健・医療・福祉チームの中でどのような役割を担うべきか医療の高度・専門化を背景も踏まえて学ぶ。</p> <p>目標 1. 看護の概念について理解する 2. 看護の対象としての人間を理解する。 3. 健康の捉え方と国民の健康状態を理解する。 4. 看護における倫理を理解する。 5. 看護の提供のしくみを理解し、医療安全と看護の質保証を考える。 6. 国際的にどのような健康問題が課題になっているか理解する。 7. 看護の歴史について理解し、これからの看護について考える。</p> <p>授業計画 1-5 看護とは 看護理念家から学習する。(GW) 実践に生かす看護理論 19 A 看護の本質 ①看護の変遷 ②看護の定義 B 看護の役割と機能 ①看護ケア ②看護実践とその質保証に必要な要件 ③看護の役割・機能の拡大 C 看護の継続性と連携 6-7 看護の対象の理解 人間の心と体(オメオスタシス、ストレス、人間のニード)、生涯発達しつづける存在としての人間の理解、人間の暮らしの理解 8-9 国民の健康状態と生活 健康のとらえ方、国民の健康状態と健康の全体像、国民のライフサイクル 10 看護の提供者 A 職業としての看護、B 看護職の資格・養成制度・就業状況(GW) 11 看護における倫理 A 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理、 B 看護実践における倫理問題への取り組み 患者の権利擁護、患者のプライバシー保護、看護師の倫理規定、職業倫理 12 看護の提供のしくみ サービスとしての看護、提供の場、看護をめぐる制度と政策、看護サービスの管理 医療安全と医療の質保証 13 広がる看護の活動領域 A 際化と看護 B 災害時における看護 日本に在留する外国人の看護 14 看護の提供者(看護の歴史) 職業としての看護歴史、看護職の養成制度就業状況およびその課題、 看護職者の教育とキャリア開発 15 終講試験</p>							講義 グループワーク 課題発表
評価方法 : 終講試験							
テキスト : ①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 医学書院 ②看護の基本となるもの ③看護覚書 ④新版 看護者の基本的債務(定義・概念/基本法/倫理)日本看護協会監修、日本看護協会出版会 ⑤実践に生かす看護理論 19 サイオ出版							
講師紹介 : 専任教員。高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院までの全専門領域の実習指導。基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。看護学生雑誌への基礎看護技術方法の連載。介護支援専門員、国際・日本アンガーマネジメントファシリテーターの資格有。							

学科目	看護研究	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野 I
講師名	田中 幸恵					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的：看護研究に必要な基礎的知識を理解し、研究的態度を身につける</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における研究の意義を説明できる。 2. 看護研究の領域と種類を説明できる。 3. 文献検索ができ、文献カードが作成できる。 4. クリティークができる。 5. 研究計画書が立案できる。 6. データ収集と分析方法がわかる。 7. 研究的態度で研究に取り組める。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義、看護研究とは、リサーチアクションの選択、文献レビューとその方法 2. リサーチアクションの絞り込み、看護研究における倫理的配慮、研究デザイン 3. データ収集、データ分析 4. 研究計画書、論文構成、クリティーク 5. 研究計画書 6. 中間試験、アンケート作成または実験手順の作成 7. 看護研究の実際 データ収集 8. 看護研究の実際 データ整理 9. 看護研究の実際 データ分析 10. 看護研究の実際 論文作成 11. 看護研究の実際 論文作成 12. 看護研究の実際 論文作成 13. 看護研究の実際 論文作成 14. 研究発表 15. 研究発表 							講義 グループワーク
<p>評価方法：筆記試験 30 点、文献カード 10 点、クリティーク 10 点、研究計画書 10 点、論文・抄録作成 35 点、発表・参加貢献度 5 点 合計 100 点で評価。</p>							
<p>テキスト：系統看護学講座 別巻 看護研究 2023 年春改訂 医学書院</p>							
<p>講師紹介：総合病院において看護師長経験あり。助産師資格あり。担当:看護管理・看護研究</p>							

学科目	共通看護技術 I (技術の概念/安全)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野 I
講師名	中村 敏代					学期	1 年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>基礎看護技術を学ぶ導入として、技術とは何か、看護技術とは何か、技術の概念について学ぶ。それを踏まえ看護行為に共通する技術の中で最も基本となる対象の「安全」を守る技術について学ぶ。「安全」を守る技術は、医療現場や療養の場において、対象の生命や健康状態を直接おびやかす危険性をできる限り排除するための技術である。感染予防と医療事故防止の視点からその必要性和看護の役割について考え、看護実践につながる技術の基礎を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念について理解する。 2. 患者の療養生活における安全確保の重要性を理解する。 3. 医療事故の種類と事故防止の発生要因、分析方法を知る。 4. 抑制法について理解する。 5. 感染及び院内感染の要因を理解し、防御のための基礎知識を理解する。 6. 感染予防の看護方法について理解する。 7. 感染予防の技術(手指衛生・PPE の着脱・無菌操作)を習得する。 8. 創傷処置(洗浄・消毒・保護)・包帯法の基本を知る。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の定義・特徴・基本原則 2. 安全とは 看護における安全の意義と看護師の役割、安全に影響する要因 3. 看護事故の種類と発生要因 ヒューマンエラー 事故報告と分析 (スイスチーズモデル スノーボールモデル pm-SHELL モデル) 4. 感染とは 感染症とは 感染予防の意義と原則、標準予防策(スタンダードプリコーション)と経路別感染(接触・飛沫・空気)予防策の基本方針と具体策 5. 洗浄・消毒・滅菌 スポルディングの分類 消毒薬の作り方(デモンストレーション) 6. 手指衛生(手洗い)PPE の着脱の演習デモンストレーション、部分演習 7. 演習 - (抗菌石鹸による手洗い・速乾性擦式消毒剤による手指消毒 PPE の着脱(マスク・帽子・ガウン・手袋、エプロン) 8. 転倒転落予防の実際 デモンストレーション 部分演習 9. 創傷管理 創傷の種類 治癒過程と影響因子 創傷処置の方法(洗浄・消毒・保護) 10. 包帯法 種類・原則・巻き方(巻軸帯・三角筋等) デモンストレーション 部分演習 11. 無菌操作の原則と実際(鑷子・鉗子の取り扱い、滅菌パックの開け方、綿球の取り出し方・渡し方、滅菌法の開け方、滅菌手袋の着脱)デモンストレーション・部分演習 12. 褥瘡とは NPUAP の分類 プレーデンスケール DESING-R による評価 13. 無菌操作・創傷処置演習デモンストレーション・部分演習 14. 無菌操作(滅菌パックの開け方、鑷子の取り扱い、滅菌ガーゼ・綿球の取り出し・受け渡し)創傷処置(創部の洗浄・消毒・保護) 滅菌手袋の着脱 15. 終講試験 							<p>講義 演習</p> <p>・抗菌石鹸による手洗い</p> <p>・手指消毒</p> <p>・PPE の着脱 (マスク・帽子・ガウン・手袋・エプロン)</p> <p>・無菌操作 (鑷子・鉗子の取り扱い、滅菌パックの開け方、滅菌手袋の着脱)</p> <p>・創部の洗浄・消毒・保護</p> <p>・包帯法</p>
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 第 18 版 看護技術プラテクティス 竹尾恵子監修 第 3 班動画付 学研メディカル秀潤社							
講師紹介：高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院看護までの全専門領域の実習指導、基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。							

学科目	共通看護技術Ⅱ (コミュニケーション/観察・記録・報告)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	濱嶋 奈美					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>全ての看護行為に共通する技術の中で、対象理解の基本となる技術について学ぶ。患者-看護師のよりよい関係構築のための意図的で目的を持ったコミュニケーション方法を学ぶ。また、フィジカルアセスメントの概念、観察、身体計測、バイタルサインの測定方法について学び、患者の情報を正しく捉え把握することの重要性を学ぶ。そして、その後の治療や看護援助につなげるよう記録・報告の重要性について、個人情報保護の視点を踏まえ学んでいく。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるコミュニケーションの意義と基本的なコミュニケーション技術を理解する。 2. コミュニケーション技術の方法がわかる。 3. 観察・記録・報告の目的・種類・方法について理解する。 4. フィジカルアセスメントの概念について理解する。 5. 身体計測の目的・方法を理解する。 6. バイタルサイン測定の目的・方法を理解し、バイタルサイン測定を実施する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの手段とその特徴 2. 看護における観察 1)観察とは 2)観察の意義と方法 3-4. 観察技術 1)ヘルスアセスメントとは 2)フィジカルアセスメントとは 3)身体計測 4)バイタルサイン測定の目的と方法 5. 4)-①バイタルサイン(意識・体温・呼吸) 6. 4)-②バイタルサイン(脈拍・血圧) 7. バイタルサイン測定の実際 1)血圧測定方法-①マンシエットの巻き方 ②血圧計・聴診器の扱い方 ③血圧測定方法 8. 記録と報告 1)記録の意義と目的 2)看護記録の種類と方式 3)看護記録の方法 4)記載・管理における留意点 5)報告の意義と目的 6)報告の方法 9. プロセスレコードの目的と記述方法 10. ロールプレイングの目的と方法 11. フィジカルアセスメントの実際(演習) 1)意識 2)瞳孔の観察 3)対光反射 4)呼吸音 5)心音 6)腸蠕動音 7)MMT 8)ホーマンズ兆候 12. バイタルサイン測定(体温・呼吸・脈拍・血圧)の実際(演習) 13-14. バイタルサイン測定・記録報告の実際 ①体温・呼吸・脈拍・血圧・パルスオキシメータ ②記録(フローシート・看護記録)・報告 15. 終講試験 / 技術チェック 							講義
評価方法 :終講試験							演習 ・身体計測 ・バイタルサイン測定 (体温表の記載を含む)
<p>テキスト :系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第18版</p> <p>サブテキスト 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディアア 看護技術プラテクティス 第4版動画付き 学研メディカル秀潤社 竹尾恵子監修</p>							
<p>講師紹介 : 専任教員 JICA での国際的な看護経験を持つ。総合病院でも多科において看護経験があり、訪問看護まで多様な勤務経験あり。看護学校での教務経験もある。</p>							

学科目	共通看護技術Ⅲ (看護過程/教育・指導)	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	安齋 匡代					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>対象への効果的な看護を提供するための、思考過程である看護過程の定義・構成要素を理解し、看護展開方法の基礎を学ぶ。また、個別的な看護を提供するために、情報の分析・解釈方法に必要な知識の活用方法・思考方法・看護の展開方法がわかり、実践に至るまでの技能を習得する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を実践するための思考過程を理解する。 2. 看護過程の定義を理解し、必要性を理解する。 3. 個々が課題に積極的に取り組み、グループメンバーにその成果をわかりやすく伝えられる。 4. 学習の成果を共有し、対象の全体像を理解する方法がわかる。 5. 事例において看護上の問題を導き出す過程を経験し思考方法を理解する。 6. 事例の看護上の問題解決に向け、効果的な看護計画を立案する必要性と方法がわかる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1)看護過程を学習する意義 2)看護における指導活動の意義・目的 医療計画とクリニカルパス、報告の必要性と方法 3)看護過程とは ①構成要素 ②クリティカルシンキング 2. 情報の整理とアセスメント・看護上の問題の抽出方法 3. 全体像・関連図の作成と看護上の問題抽出方法 クラスタととの照合 4. 事例展開:情報の整理とアセスメント・ゴードンのクラスター1・2・3 個人ワーク 5. 事例展開:情報の整理とアセスメント・ゴードンのクラスター4・5・6・7 6. 事例展開:情報の整理とアセスメント・ゴードンのクラスター 8・9・10・11 7. 情報の整理とアセスメント・ゴードンのクラスターの共有と検討 グループワーク 8. 情報の整理とアセスメント・関連図の作成と看護上の問題抽出 9. 1)アセスメント・関連図の見直し 2)看護上の問題と優先順位の修正 10. 看護目標の設定と看護計画立案・実施と評価 11. 看護目標の設定と看護計画立案 グループワーク 12. 看護目標の設定と看護計画立案 グループワーク 13. 看護過程の展開:グループ発表と質疑応答 14. 終講試験 							適宜 下記方法 で進める ・講義 ・個人 ワーク ・グループ ワーク
評価方法 :終講試験 課題提出内容 グループワーク態度を総合して評価							
<p>テキスト :系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第18版 経過がみえる疾患別病態関連マップ 山口瑞穂子他監修 学研、 基準看護計画 第3版 照林社、看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀麗社 NANDA-I看護診断 定義と分類 2021-2023 第12版 上鶴重美(訳)医学書院。 実習記録の書き方がわかる看護過程ガイド 第2版 アセスメント覚書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院</p>							
<p>講師紹介 : 専任教員。高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院までの全専門領域の実習指導。基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。看護学生雑誌への基礎看護技術方法の連載。介護支援専門員、国際・日本アンガーマネジメントファシリテーターの資格有。</p>							

学科目	生活援助技術 I (環境/活動・休息・睡眠)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	阿部 千栄子					学期	1 年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>生活援助技術の導入として、すべての援助場面に存在し、対象の健康回復に影響をもたらす環境の意味を理解し、健康障害や個別性に応じた生活環境を整えるために必要な知識と援助方法を学ぶ。また、生活援助場面において対象と看護師双方が、安全かつ安楽な姿勢・体位で生活活動するための基本となるボディメカニクスの原理とそれを活用した援助方法を学ぶ。それを踏まえ、人間の活動と休息・睡眠の意義を理解し、健康な生活を送るために必要な援助方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の意義を理解する。 2. 療養環境における快適な環境条件とニードのアセスメントを理解する。 3. 療養環境を調整する方法について知識と援助方法を習得する。 4. ベッドメイキングとリネン交換についての知識と援助方法を習得する。 5. 活動・運動の意義とニードのアセスメントを理解する。 6. 姿勢・体位の種類・身体への影響・ボディメカニクスの方法を習得する。 7. 体位変換・移乗・移送の基本技術を習得する。 8. 休息・睡眠の意義とメカニズム・ニードのアセスメントを理解する。 9. 休息・睡眠を促す援助方法を理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは 2. 療養生活における環境条件 3. 病床の観察・リネン類の取り扱い 4. ベッドメイキング(クローズドベッド・オープンベッド) 5. 環境調整の方法 6. 活動の意義・体位の種類・ニードのアセスメント 7. 体位変換(水平移動・上方移動・仰臥位～側臥位・長座位・端座位) 8. ポジショニング(仰臥位・側臥位・ファーラー位) 9. 移乗・移送(車いす・ストレッチャー)の援助方法 10. 睡眠・休息の意義とメカニズム 11. 睡眠のニードのアセスメント 12. 臥床患者の環境のニードとアセスメント 13. 臥床患者の環境調整の方法 14. 臥床患者のリネン交換の援助方法 15. 終講試験 / 技術チェック(臥床患者のリネン交換) 							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>・環境整備</p> <p>・ベッドメイキング</p> <p>・臥床患者のリネン交換</p> <p>・体位変換</p> <p>・ポジショニング</p> <p>・車いす移乗・移送</p> <p>・ストレッチャー移乗・移送</p>
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ベッドまわりの環境学 川口 孝泰 医学書院</p> <p>その他：配布資料</p>							
<p>講師紹介：専任教員。基礎看護学、成人看護学、老年看護学の教員経験。 臨床実習指導者・病棟主任看護師としての勤務経験がある。</p>							

学科目	生活援助技術Ⅱ (食事/排泄)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	岩井 志乃					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 人間の健康回復に影響をもたらす食事、排泄の意義を理解し、健康な生活を送るための援助方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食と栄養の意義を理解する。 2. 食行動を理解する。 3. 栄養と食事に関するアセスメントの視点を理解する。 4. 健康状態、食行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法を理解する。 5. 食事援助の基本を理解する。 6. 食事援助の基本を習得する。 7. 人間にとっての排泄の意義を理解する。 8. 排泄に関するアセスメントの視点を理解する。 9. 健康状態、排泄行動の自立度に応じた排泄のニーズを充足する方法を理解する。 10. 排泄の援助の基本を習得する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事・栄養の意義 2. 食行動(食物を口に入れる→咀嚼→嚥下→消化・吸収)のメカニズム 3. 食事介助・口腔ケアの方法と実際 4. 中心静脈栄養法・経管栄養法 5. 演習－食事介助・口腔ケア 6. 排泄の意義 7. 排尿の生理的機序と異常 8. 排便の生理的機序と異常 9. 排泄に影響する要因 10. 排泄の援助 1)使用器具・(ポータブルトイレと便器, 尿器・紙オムツ) 2)自然排便・自然排尿 11. 排泄の援助 3)排泄と感染予防 4)排泄障害(失禁ケア、排泄訓練、ストレス緩和) 12. 浣腸・導尿(一時的・持続的)の意義と目的 13. 演習－排泄の援助の実際(床上排泄・浣腸) 14. 演習－排泄の援助の実際(一時的導尿) 15. 終講試験 / 技術チェック 							
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 看護技術プラテクティス 竹尾恵子監修 第4版動画付 学研メディカル秀潤社							
講師紹介：専任教員。在宅看護論、災害看護の教育経験有。 基礎看護学、老年看護学、成人看護学の実習指導経験有。							

学科目	生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活/電法)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野Ⅰ
講師名	阿部 千栄子					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>身体を清潔にし、身だしなみを整え、TPOに合わせた衣服を選択しながら生活することは基本的ニーズの一つである。「清潔・衣生活」では皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、対象者が健康な生活を送るために必要な援助方法を学ぶ。</p> <p>「電法」では対象者に安寧・安楽をもたらすことにつながる技術であることを理解し、温度刺激の生体への影響をアセスメントし、より効果的に、安全に援助する方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての身体の清潔の意義を理解する。 2. 清潔のニーズのアセスメントを理解する。 3. 身体各部の清潔に対する援助技術の基本を習得する 4. 衣生活の意義を理解する。 5. 衣生活のニーズのアセスメントを理解する。 6. 寝衣交換の援助技術の基本を習得する。 7. 電法の意義・目的を理解する。 8. 冷電法・温電法の援助技術の基本を習得する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣生活の意義・目的 2. 衣生活の・ニーズのアセスメント 3. 寝衣交換の方法 4. 身体清潔の意義・皮膚粘膜の構造と生理学的メカニズム 5. 入浴・シャワー浴・清潔のニーズのアセスメント 6. 手・足浴の援助 7. 全身清拭の援助 8. 頭皮・頭髪の生理的メカニズム 9. 頭髪の清潔のニーズとアセスメント 10. 洗髪の援助(ケリーパッド) 11. 陰部の清潔 12. 整容・口腔ケア 13. 電法の意義・目的 14. 冷電法・温電法の実際 15. 終講試験 							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>・全身清拭</p> <p>・手・足浴</p> <p>・洗髪</p> <p>・寝衣交換</p> <p>・冷電法</p> <p>・温電法</p>
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 看護技術プラテクティス 竹尾恵子監修 第4班動画付 学研メディカル秀潤社							
その他：配布資料							
講師紹介：専任教員 基礎看護学、成人看護学、老年看護学の教員経験。 臨床実習指導者・病棟主任看護師としての勤務経験がある。							

学科目	診療補助技術 (診察・検査／与薬)	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	中村 敏代					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>治療や処置・検査を受ける対象への看護に必要な援助技術を学ぶ。診察・検査(採血を含む)、与薬の技術は生体侵襲を伴うことを理解した上で、正確な技術と知識を用いて安全・安楽に行う方法を学ぶ。与薬については薬物療法の視点から看護の法的責任と役割について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療における診察・検査の位置づけ・意義・目的・種類を理解する。 2. 診察・検査時の看護師の役割・援助方法を理解する。 3. 採血の技術を習得する。 4. 与薬の意義・目的を理解する。 5. 与薬における看護師の役割を理解する。 6. 与薬の種類とその援助方法を理解する。 7. 経口与薬・筋肉内注射・点滴静脈内注射の基本的技術を習得する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬とは 与薬の目的 薬物療法における看護師の役割と責任 薬物の法令と保管 薬物の種類 薬物の投与・吸収経路と排泄 2-3. 確認すべき6R(内容)と3回以上確認(確認時期) 各与薬法と援助(経口与薬 口腔内与薬 塗布・塗擦 直腸内与薬 吸入 点 眼・点鼻 注射(皮内・皮下・筋肉内・静脈内・点滴静脈内) 与薬方法と血中濃度(効果発現時間 吸収速度等) 4. 注射法 注射とは 注射の種類 注射器具(注射器・注射針・点滴セット 三方活栓) 5. 注射器と注射針の接続 部分演習／経口与薬の実際 デモストレーション 6. 演習一経口与薬 6Rの確認 誤嚥予防を考慮した体位の調整 確実な服用援助 7. 筋肉注射(三角筋・中殿筋)・皮下注射(上腕)の実際 デモストレーション 8. 演習一筋肉注射(三角筋)・薬液の準備(アンプル)・6Rの確認 9. 診察・検査の意義・目的・看護師の役割 対象の心理 10. 点滴静脈内注射・静脈内注射の実際 デモストレーション 部分演習 11. 検査の種類と看護(生体検査 検体検査/穿刺・洗浄を含む) 12. 採血の実際 デモストレーション 部分演習 13. 演習一点滴静脈内注射(誤刺予防翼状針)・静脈注射・薬液の準備(バイアル) 6Rの確認 14. 演習一採血(真空採血管・注射器) 15. 終講試験 							講義 演習 <検査> ・採血 注射器 真空管 <与薬> ・注射器の接 続 ・アンプルの 吸い上げ ・経口与薬 ・筋肉内 注射 ・点滴内静脈 内注射
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術II 第18版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第4版動画付き 学研メディカル秀潤社							
講師紹介：専門領:基礎看護学 高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院看護までの全専門領域 実習指導、基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。							

学科目	臨床看護技術	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	村上 末恵					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>看護の概念を踏まえ、各発達段階や健康問題の経過に共通する看護の考え方、看護実践について学ぶ。また、救命救急時に必要な技術の基礎を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康問題の経過と各経過の特徴を理解する。 各経過の特徴と発達段階との関連を理解する。 各経過をたどる患者の看護を理解する。 継続看護の定義を理解する。 主要症状別看護の特徴を理解する。 痛みのある患者への看護を理解する。 治療処置別看護(安静療法・放射線療法)の特徴を理解する。 安静療法・放射線療法を受ける患者の看護を理解する。 救命処置法について理解する。(BLS・ACLS・トリアージ・止血法、熱傷看護) ME機器の種類・特性・取り扱いと使用時の看護について理解する。 吸引・吸入の適応と種類、援助方法を理解する。 一次救命処置(BLS)法・止血法を習得する。 一時的吸引(口腔・鼻腔内・気管内吸引)の技術を習得する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 経過別看護とは 各経過別看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 急性期 慢性期 回復期 終末期 リハビリテーションと看護 継続看護とは 主要症状別看護とは 痛みのある患者への看護 治療・処置別看護の特徴と安静療法・放射線療法を必要とする患者の看護 ME機器の種類と特性、使用時の看護 医療ガス(酸素)の取り扱いについて 酸素吸入療法を必要とする患者の看護 救命処置法とは(BLS・ACLS・トリアージ・止血法、熱傷看護) 演習－ 一次救命処置(BLS)・止血法の実際 吸引・吸入の目的と看護の役割 演習－ 一時的吸引(口腔・鼻腔内・気管内吸引)の実際 終講試験 							講義 演習 ・一次救命処置(BLS) ・一時的吸引(口腔鼻腔気管内)
評価方法：終講試験 課題提出内容 授業技術態度を総合して評価							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 第7版 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 第4版動画付 学研メディカル秀潤社 医療安全ワークブック 第4版 医学書院							
講師紹介：臨床では主任看護師としてリウマチ病棟、回復期リハビリ病棟、整形外科病棟・外来看護に携わり、教育では成人急性期・基礎看護学を担当している。							

学科目	地域と暮らし	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	森山 ゆかり					学期	1年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>地域における暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 暮らしということが人々のどのような営みにより成り立っているのかを理解する。 支えあっていきるといことは、日常どのようなことであるのか 暮らしの場を通して理解する。 地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2 暮らしということ <ul style="list-style-type: none"> 子どもを生み育てる ・学ぶ 働く ・病を治す 老いとともに生きる ・最期を迎える 3. 支えあって生きるとは <ul style="list-style-type: none"> 家族 ・仲間 近隣の人々 ・学校や職場 支え合い 4. 地域の生活環境が療養に与える影響 <ul style="list-style-type: none"> 文化的環境・社会的環境・自然環境 5～7 地域探索 <ul style="list-style-type: none"> 地域の人々とその健康課題についてまとめる 7.5 終講試験・評価 							講義 動画 グループワーク レポート発表
<p>評価方法：グループワーク参加における評価 50点 課題提出内容を総合して評価 50点</p>							
<p>テキスト：基礎からわかる地域・在宅看護論 照林社 他</p> <p>参考資料：授業内で指示する</p>							
<p>講師紹介：専任教員。専門領域：在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。</p>							
<p>備考：2年次の地域・在宅看護論につながる内容となる。</p>							

学科目	地域・在宅看護概論	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	森山 ゆかり					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護論の対象を理解する。 2. 地域に暮らす人々の健康と暮らしを支える看護について理解する。 3. 地域において看護が提供される多様な場を理解する。 4. 地域・在宅看護論に関連する法と制度について理解する。 5. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントの必要性について理解する。 <p>授業計画</p> <p>1～2. 地域・在宅看護論の対象 看護を取り巻く社会の変化、地域で暮らすすべての人々、健康状態(健康のよい状態～終末期まで)、発達段階(胎児期～老年期まで)、家族</p> <p>3～4. 健康と暮らしを支える看護 地域包括ケアシステムにおける看護の役割、自助/互助/共助/公助の意義と役割、家族を支える看護・災害時の看護、多職種連携・協働の意義と方法</p> <p>5～7. 看護が提供される多様な場 病院(外来・入院)・診療所、居宅(自宅・施設)、地域包括支援センター、訪問看護事業所、療養通所介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、介護施設など</p> <p>8～10. 地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策 医療保険・介護保険制度、訪問看護に関する法と制度、権利保障に関する法と施策、各保健・障害者等に関する法と施策</p> <p>11～12. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント 自己決定支援(ACPを含む)、ケアマネジメントの必要性、インフォーマルネットワークの維持</p> <p>12.5 終講試験</p>							講義 ビデオ グループワーク レポート発表
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院、 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院							
講師紹介：専任教員。専門領域:在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。							
備考：1年次の「地域と暮らし」の学習、基礎看護実習Iを踏まえての発展科目となる。							

学科目	家族看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	森山 ゆかり					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>家族成員の健康状態が家族に及ぼす影響を理解し、より正しいアセスメントのもと家族支援が行えるための基礎を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族をケアの対象として位置付け看護するという意味と必要性を説明することができる。 2. 家族という集団がもつ特徴について、家族システム、家族発達、家族セルフケアの視点から説明することができる。 3. 健康問題を有する家族員を抱えた家族の病気体験を分析することができる。 4. 家族の全体像をとらえて、家族の力の発揮を支える看護援助を提案することができる。 5. <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を看護ということ 2. 家族の病気体験を理解する 3. 家族と援助関係を形成する 4. 家族への看護アプローチ(1) 家族のセルフケアの支援 5. 家族への看護アプローチ(2) 家族の役割調整、家族関係の調整・強化、家族内コミュニケーションの活性化 6. 家族への看護アプローチ(3) 家族の対処行動や対処能力の強化、社会資源の活用 7. 家族看護の実際 <p>7.5. 終講試験</p>							<p>講義</p> <p>ビデオ</p> <p>グループワーク</p> <p>レポート発表</p>
評価方法：授業に関する提出物(30点)終講試験(70点)							
テキスト：家族看護学「家族のエンパワーメントを支えるケア」MCメディカ出版							
参考資料：授業内で提示する							
講師紹介：専任教員。専門領域：在宅看護論。総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として訪問看護ステーションに勤務し10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。							
備考：1年次の「家族論」2年次の「地域・在宅看護概論」を踏まえての内容となる。領域横断型の内容となる。							

学科目	地域・在宅看護援助論	単位数	1	時間数	20	科目区分	専門分野
講師名	渡邊 典子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>在宅看護の対象となる人々の心身の状況・生活の実際、在宅看護の方法について理解し、地域医療や在宅看護で接することの多い疾患を抱える療養者について症状、医療処置、看護援助、緊急時の対処、終末期ケアを理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護において、対象にいかによりアプローチをするかを理解する。 2. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメントについて学ぶ。 3. 継続看護のための介入時期と方法について理解する。 4. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解する。 <p>講義計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 ハイリスクアプローチ(生活習慣病予防・介護予防など)、健康行動理論の活用、セルフケア理論の活用 2～3. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント ヘルスアセスメント、病態・症状のアセスメント、家族のアセスメント、生活のアセスメント 4～6. 介入時期と看護の継続性 治療の場からの移行期、在宅療養の安定期、在宅リハビリテーション期、急性憎悪期、災害時、終末期、グリーフケア、継続看護の意義と方法 7～9. 暮らしの場で行われる治療と看護 服薬管理、褥瘡予防・褥瘡処置、栄養状態改善のケア、輸液・在宅中心静脈栄養法、膀胱留置カテーテル、在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法、ストーマ管理、疼痛緩和など 10. 終講試験 							講義 ビデオ グループワーク レポート発表
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院							
講師紹介：(株)かんのん代表取締役。地域で活躍中。会社事業として訪問介護員向けの医療的ケアの講師。看護教育・訪問看護ステーション勤務・介護支援専門員の実務経験を活かし、多くの訪問看護ステーションとの関わり、多職種連携で公正中立な立場で学生に講義を展開している。地域で生活する人工呼吸器装着中の方々との交流も含め在宅看護のダイナミクスを伝えている。							
備考：基礎・専門基礎・専門分野の他領域との関連を考えながら統合していく学習となる。							

学科目	地域・在宅看護論演習	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	岩井 志乃					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 基本的な生活構造の視点から、療養者・家族への看護の実際を学ぶ。</p> <p>目標 1. 問題解決型思考・目標指向型思考による在宅看護過程の展開の基本的考え方について理解する。 2. 在宅療養における基本的な日常生活援助技術（家族への指導技術を含む）を習得する。</p> <p>授業計画 在宅看護過程の展開：地域・在宅看護とは 地域・在宅看護における看護過程の基本的な考え方と特徴 1. 事例紹介・病態の理解・療養者の情報収集とアセスメント 2. 生活関連図作成 3. 関連図発表：療養者の健康状態と生活への影響を関連図を用いて説明 4. 関連図追加・修正 看護計画作成 5. 看護計画発表 6. 看護計画の追加・修正 提出、地域・在宅看護の展開に必要な知識についてのまとめ</p> <p>在宅看護技術演習 7. 8. 退院調整・初回訪問・訪問時のマナー・指導技術・記録 9. 10. 緊急時の対応（HOT） 11. 12. 在宅経管栄養法：経鼻胃チューブの挿入 13. 14. 在宅での看取りの看護 15. 終講試験・評価</p>							講義 ビデオ グループワーク レポート発表
評価方法：看護過程展開成果評価 60点 演習レポート40点							
テキスト：地域・在宅看護過程 医歯薬出版株式会社 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 第6版 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 第6版 医学書院							
講師紹介 岩井 志乃 専任教員。専門領域：在宅看護論。在宅看護論、災害看護の教育経験有。基礎看護学 老年看護学、成人看護学の実習指導経験有。							
備考：基礎・専門基礎・専門分野との関連を考えながら統合していく学習となる。							

学科目	多職種連携	単位数	1	時間数	20	科目区分	専門分野
講師名	森山 ゆかり 岩井 志乃 中村 万理子 竹下 紀子 福井 紀子 井上 都 福田 明雄 松下 渚 鈴木亜紀					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 保健・医療・福祉チームの各職種を理解し、多職種連携・協働の意義と方法を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種協働の意義と看護職の役割を理解する。 2. 多職種の役割と連携・協働の実際を理解する。 3. 専門職連携の意義を事例協同学習により深める。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種協働の意義と学習目的の理解 2時間(森山 ゆかり) 多職種協働の意義と学習目的・看護職の役割 保健・医療・福祉チームの各職種の理解 2～8. 多職種の役割と連携・協働の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 言語聴覚士の役割と連携・協働の実際 2時間(中村 万理子) 2) 作業療法士の役割と連携・協働の実際 2時間(竹下 紀子) 3) 管理栄養士の役割と連携・協働の実際 2時間(福井 紀子) 4) 薬剤師の役割と連携・協働の実際 2時間(井上 都) 5) 理学療法士の役割と連携・協働の実際 2時間(福田 明雄) 6) 歯科衛生士の役割と連携・協働の実際 2時間(松下 渚) 7) 介護支援専門員・社会福祉士・介護福祉士の役割と連携・協働の実際 2時間(森山 ゆかり) 9～10. 専門職連携事例学習 4時間(鈴木亜紀・松下 渚・森山ゆかり・岩井志乃) <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯科衛生科学生・看護科学生による協同学習 (退院支援在宅療養導入期事例):グループワーク 2) 多職種連携・協働の意義と方法まとめ:グループワーク発表 							講義 ビデオ グループワーク レポート発表 演習
評価方法 : ポストテスト 50 点 成果評価 50 点(評価担当:森山 ゆかり)							
テキスト : 系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 その他 各領域テキスト							
<p>講師紹介 :</p> <p>森山 ゆかり : 総合病院での臨床実践・看護教育実践を経て訪問看護師・介護支援専門員として10年間地域看護に従事。社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会での勤務経験がある。</p> <p>岩井 志乃 在宅看護、災害看護の実践と教育経験有。基礎看護学、老年看護学、成人看護学の実習指導経験有。</p>							

中村 万理子：行岡病院 リハビリテーション科 言語聴覚士
竹下 紀子：行岡病院 リハビリテーション科 作業療法士
福井 紀子：行岡病院 管理栄養士
井上 都：行岡病院 薬局長 薬剤師
福田 明雄：行岡病院 理学療法科 科長 理学療法士
鈴木 亜紀：行岡医学技術専門学校 歯科衛生科 専任教員
松下 渚：行岡医学技術専門学校 歯科衛生科 専任教員

学科目	成人看護学概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	遠田 有里					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 成人期にある人々とその家族を多面的な視点から理解する考え方や、健康と病気を連続したものとして捉え、あらゆる健康状態の変化にある対象の健康課題の特徴を理解し、それぞれに応じた看護を学ぶ</p> <p>目標 1.ライフステージと健康問題の視点から成人の特徴を理解できる 2.成人を対象とする看護の特性と役割を理解できる 3.対象の健康状態の変化に応じた看護を提供するための基礎的知識を習得できる</p> <p>授業計画 7回</p> <p>1. 成人の特徴と生活 1)対象の理解:大人になること 2)対象の生活:働いて生活を営むこと</p> <p>2. 成人への看護アプローチの基本 1)成人教育学 4)看護におけるマネジメント 2)医療における人間関係 5)看護実践における倫理的判断,意思決定支援 3)チームアプローチ</p> <p>3.健康をおびやかす要因と看護 1)ストレスマネジメント 2)就業と生活習慣や生活環境</p> <p>4. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 1)健康の急激な破綻 2)急性期にある人の看護・危機理論</p> <p>5. 慢性病との共存を支える看護 1)慢性病患者の理解・ ・病みの軌跡 ・首尾一貫感覚(SOC) 2)慢性病との共存を支える看護の実際 ・エンパワメント ・セルフケアとセルフマネジメント</p> <p>6.障害がある人とリハビリテーション看護 1)障害とは 2)障害がある人とその生活を支援する看護 3)看護の実際</p> <p>7. 人生の最期のときを支える看護 1)人生の最期のときにおける医療の現状 2)人生の最期のときを過ごしている人の理解 ・全人的苦痛(トータルペイン) 3)人生の最期のときを支える看護 ・アドバンスケアプランニング ・死の準備教育(デスエデュケーション) ・看護師自身のケア</p> <p>7.5. 終講試験</p>							講義 グループ ワーク
評価方法：終講試験 90点 グループワーク参加貢献度 5点 課題レポート 5点							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 第16版 医学書院 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会 統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版 医学書院							
講師紹介：専任教員、専門領域：成人看護学 公的医療機関である大阪府指定がん診療拠点病院に勤務。小児・成人・老年期を対象とする一般内科・外科病棟に就き、現任教員・実習指導教育・医療安全などの看護管理にも携わっていた。							
備考：既習学習である看護学概論、基礎看護学、解剖生理学を復習しておくこと							

学科目	成人看護援助論 I	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	中井 聡紀 ・ 安齋 匡代					学期	2 年前期
科目目標・内容							方法
目的	循環器系・脳・神経機能に障害のある対象および、その家族に対する看護を学ぶ						講義・技術演習(心電図) グループワーク 演習 講義 グループワーク
目標	循環器系・脳・神経機能に障害のある対象の特徴が理解できる。 循環器系・脳・神経機能の障害が日常生活に与える影響と健康問題が理解できる。 循環器系・脳・神経機能に障害のある対象および、その家族に対する基礎的援助が説明できる。						
授業計画【循環器系】	中井 聡紀 14 時間						
	1.循環器系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む)						
	2.循環器系機能に障害のある成人に対する看護の役割						
	3.主要な症状に対する看護						
	1)胸痛のある対象の看護 アセスメント 目標設定 計画・実施と評価						
	2)不整脈のある対象の看護 3)浮腫のある対象の看護						
	4.主要な検査に伴う看護						
	1)心臓カテーテル検査をうける対象の看護 2)心電図検査をうける対象の看護						
	5.主要な治療・処置に伴う看護						
	6. 7.主要な疾患をもつ対象の看護						
	1)虚血性心疾患(心筋梗塞)心不全・不整脈・高血圧患者の看護						
授業計画【脳・神経系】	安齋 匡代 13 時間						
	1.脳・神経系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む)						
	2. 脳・神経系機能に障害のある成人に対する看護の役割						
	3.主要な症状に対する看護						
	1)意識障害・頭蓋内圧亢進症状のある対象の看護						
	2)けいれんのある対象の看護						
	3)運動麻痺のある対象の看護 4)言語障害のある対象の看護						
	4. 主要な検査に伴う看護						
	1)腰椎穿刺・脳血管撮影をうける患者の看護						
	5.主要な治療・処置に伴う看護						
	6. 主要な疾患をもつ患者の看護						
	1)脳梗塞・脳動脈瘤患者の看護						
	2)外科的療法—脳出血で開頭術を受ける患者の看護						
28. 終講試験【循環器系】+【脳・神経系】	1 時間						
評価方法	終講試験(循環器 50 点 脳・神経 50 点)						
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 第 16 版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経 第 16 版 医学書院						
講師紹介	中井 聡紀 : 守口敬仁会病院 看護師 循環器 認定看護師 安齋匡代 : 専任教員。高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院までの全専門領域の実習指導。基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。看護学生雑誌への基礎看護技術方法の連載。介護支援専門員、国際・日本アンガーマネジメントファシリテーターの資格有。						
備考	既習学習である、疾病治療論の循環器、脳・神経系、基礎看護診療の補助技術の復習を確実にしておくこと。この授業は成人看護学実習 I に繋げるための授業でもある。看護過程、成人看護学概論、成人看護援助論・臨床看護技術などの既習学習を振り返っておく。						

学科目	成人看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	遠田 有利 ・ 澤田 真里子					学期	2 年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器系機能に障害のある対象及びその家族に対する看護を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器系の障害のある成人期の対象の特徴が理解できる。 2. 血液・造血器・アレルギー・免疫・腎・泌尿器系の障害が日常生活に与える影響と健康問題が理解できる。 3. 血液・造血器・アレルギー・免疫・腎・泌尿器系の障害のある対象および、その家族に対する基礎的援助が説明できる。 <p>授業計画</p> <p>血液・造血器 アレルギー・免疫系【遠田 有利:20 時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・造血器に障害のある成人期の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント(免疫機能障害・骨髄機能障害・生命/生活への影響) 2) 検査・処置を受ける患者への看護(骨髄穿刺) 3) 治療を受ける患者への看護(造血幹細胞移植・輸血) <p>病期や機能障害に応じた看護(血液悪性疾患)</p> 2. アレルギー・免疫に障害のある成人期の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント(皮膚粘膜障害・免疫機能障害) 2) 検査・処置を受ける患者への看護(スキンテスト・パッチテスト・粘膜/皮膚生検) 3) 治療を受ける患者への看護(アレルギー免疫療法・免疫抑制薬・ステロイド療法) 4) 病期や機能障害に応じた看護(アレルギー疾患・自己免疫疾患・ヒト免疫不全ウイルス感染症) <p>腎泌尿器系【澤田 真里子: 8 時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 腎系に障害のある成人期の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント(体液量調節障害・電解質調節機能障害・酸塩基平衡調節機能障害・生命/活動への影響) 2) 検査・処置を受ける患者への看護(静脈性尿路造影・腎生検) 3) 治療を受ける患者への看護(薬物療法・食事療法・急性期持続血液濾過透析・血液透析・腹膜透析) 4) 病期や機能障害に応じた看護(急性腎不全・慢性腎不全・慢性腎臓病・腎移植術後) 4. 泌尿器系に障害のある成人期の対象の理解【橋本葉子 4 時間】 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント(畜尿・排尿障害・生命/生活への影響) 2) 検査・処置を受ける患者への看護(尿流動態検査・残尿測定・膀胱鏡) 3) 治療を受ける患者への看護(膀胱切除術・前立腺切除術・ホルモン療法) 4) 病期や機能障害に応じた看護(腎/尿路結石・腎癌・膀胱癌・前立腺肥大) <p>28. 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験(血液・造血 35 点 アレルギー・免疫 35 点 腎・泌尿器系 30 点)							講義
テキスト：系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器 第 16 版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第 16 版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 第 16 版 2025 年改訂 医学書院							グループワーク
講師紹介：遠田 有利 :看護師、看護師長、看護教員の経験有。専門:基礎看護学、成人・老年看護学 澤田 真里子:北野病院 看護師長							
備考：既習学習である、疾病治療論の循環、血液・造血器、アレルギー・免疫、腎・泌尿器、基礎看護診療の補助技術の復習を確実にしておくこと。この授業は成人看護学実習Ⅰに繋げるための授業でもある。看護過程、成人看護学概論、成人看護援助論・臨床看護技術などの既習学習を振り返っておくこと							

学科目	クリティカルケア・ 周手術期看護	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	村上 未恵					学期	2年次後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 消化器系機能に障害のある対象、クリティカルケア・周手術期にある対象および、その家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期の生体反応を理解し、看護の役割を説明できる。 2. 周術期での各期における看護の特徴を説明できる。 3. 手術を受ける患者の日常生活に与える影響と健康問題が言える。 4. 手術を受ける患者とその家族に対する基礎的援助を説明できる。 5. 消化器疾患の周手術期の看護の特徴がわかる。 6. 人工肛門造設術の看護展開が理解できる <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期の看護の概要と看護師の役割について <ol style="list-style-type: none"> ①発達段階に応じた手術看護の役割 ②クリティカルな治療を受ける患者の看護 2. 麻酔とは。麻酔の種類と術前・中・後の管理方法について 3. 全身麻酔と局所麻酔の合併症 4. 手術侵襲と合併症、手術方法について 5. 術後合併症の理解 看護過程とのつながり 6. 術前の患者の看護:術前オリエンテーション、術前検査、クリティカルパスについて 7. 術中の患者の看護 8. 術後の患者の看護①: 患者の術後環境理解 9. 術後の患者の看護②: 患者の症状理解・判断方法について 10. 様々な疾患における周術期の看護におけるポイント:解剖生理と手術侵襲に関する講義 <ol style="list-style-type: none"> ①消化器疾患の手術後の視点:直腸がん ②人工肛門造設術とその看護 ③事例展開についてのオリエンテーション ④国家試験対策 11~14. <p>人工肛門造設術患者の事例展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)術前からの看護(術前オリエンテーション) 2)術中の看護 3)術後の看護(術後合併症と予防) 4)術後の機能障害や生活制限への看護 5)看護上の問題(共同問題立案) 6)計画・立案(術後観察 早期回復促進への援助) 7)事例を基に術後の看護計画立案と演習(術後居室時の観察、離床看護、報告) 15. 終講試験 							<p>講義 視聴覚教材</p> <p>講義 デモンストレーション (術直後の観察と術後ベッドデモンストレーション)</p> <p>講義 視聴覚教材</p> <p>事例展開 グループワーク 協同学習 演習実施</p>
評価方法：終講試験 70点 演習課題 30点							
テキスト：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 第2版 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 第16版 医学書院 よくわかる周術期看護 学研							
講師紹介：専任教員 臨床では主任看護師としてリウマチ病棟、回復期リハビリ病棟、整形外科病棟・外来看護に携わり、教育では基礎看護学を担当している。							

学科目	成人看護学演習 I	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	松本 順子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 内分泌・代謝系機能に障害のある対象、自己管理支援が必要な対象および、その家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝系機能に障害のある対象の特徴を説明できる。 2. 内分泌・代謝系機能の障害が成人の日常生活に与える影響と健康問題が言える。 3. 内分泌・代謝系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる。 4. 事例展開を通して糖尿病を持つ対象の看護がわかる。 5. 事例展開を通して糖尿病を持つ人が課題とするセルフケアがわかる。 6. 事例展開を通して、自己管理支援を必要とする対象の看護がわかる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む) 2. 内分泌・代謝系機能に障害のある成人に対する看護の役割 3. 主要な症状に対する看護 4. 主要な検査に伴う看護 (ホルモン負荷試験・OGTT) 5. 主要な治療・処置に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事療法 2) 薬物療法 (インスリン療法・糖尿病治療内服薬) 3) 運動療法 6. 主要な疾患をもつ対象の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病、バセドウ病 7～11. 糖尿病の教育入院患者の事例展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集 2) 分析 (自己管理状況のアセスメント、セルフケア行動形成への影響要因) 3) 全体像 4) 看護上の問題 5) 計画・立案 6) 援助計画 7) 事例を基に自己管理支援計画立案と演習 (自己効力感・エンパワメント) 12. 終講試験 							<p>講義・デモ・DVD (血糖測定・インシュリン注射)</p> <p>グループワーク 演習</p>
評価方法 : 終講試験 50 点 演習課題 40 点 グループワーク参加貢献度 10 点							
テキスト : 系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 第 16 版 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研							
講師紹介 : 専任教員、専門領域 : 成人看護学 公的医療機関である大阪府指定がん診療拠点病院に勤務。小児・成人・老年期を対象とする一般内科・外科病棟に就き、現任教育・実習指導教育・医療安全などの看護管理にも携わっていた。							
備考 : 既習学習である、疾病治療論の内分泌・代謝系、基礎看護学の指導技術、与薬、看護過程、成人看護学概論の病みの軌跡、セルフケア理論の復習を確実にしておくこと。							

学科目	成人看護学演習Ⅱ	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	松本 順子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的 呼吸器系機能に障害のある対象、終末期にある対象および緩和ケアを必要とする対象と家族に対する看護を学ぶ</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸器系機能に障害のある対象の特徴を説明できる。 2.呼吸器系機能の障害が成人の日常生活に与える影響と健康問題が言える。 3.呼吸器系機能に障害のある対象と家族に対する基礎的援助を説明できる。 4.事例展開を通して肺癌患者の看護がわかる。 5.事例展開を通して終末期の看護がわかる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸器系機能に障害をもつ対象の理解 (フィジカルアセスメント含む) 2.呼吸器系機能に障害のある成人に対する看護の役割 3.主要な症状に対する看護 4.主要な検査に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1)気管支鏡 2)胸腔穿刺 3)肺生検 4)呼吸機能検査 5)酸塩基平衡 5.主要な治療・処置に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1)肺切除 2)酸素療法 3)NIPPV 及び侵襲的陽圧換気 4)薬物療養 6.主要な疾患をもつ対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1)腫瘍(肺癌・中皮腫) 2)肺炎・気管支炎・胸膜炎 3)慢性閉塞性肺疾患(COPD) 4)気管支喘息 <ol style="list-style-type: none"> 7.肺癌患者の事例展開 <ol style="list-style-type: none"> 1)情報収集 2)分析 3)全体像 4)看護上の問題 5)計画・立案 6)看護計画に基づいた実技演習 8-11.事例を基に終末期における援助計画立案と演習 エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care> <ol style="list-style-type: none"> 1)①全人的苦痛 ,②死の受容過程 ,③疼痛 それぞれのアセスメントとマネジメント 2)症状(呼吸困難、浮腫、排泄異常、食欲不振、睡眠障害)アセスメントとマネジメント 3)家族ケア 12. 終講試験 							<p>講義</p> <p>技術演習</p> <p>グループワーク</p>
評価方法：終講試験 50点 演習課題 40点 グループワーク参加貢献度 10点							
テキスト：系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 第16版 2024改訂 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメントガイドブック メディックメディア							
講師紹介：専任教員。専門領域:成人看護学。 公的医療機関である大阪府指定がん診療拠点病院に勤務。小児・成人・老年期を対象とする一般内科・外科病棟を経験。							
備考：既習学習である疾病治療論の呼吸器系、基礎看護診療の補助技術、看護過程、成人看護学概論の危機理論の復習をしておくこと。この授業は成人看護学実習Ⅱに繋げるための授業でもある。							

学科目	老年看護学概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	今川 貴実子					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的:高齢者の築いてきた生活史を基盤に対象を理解する考え方を学ぶ。 また、高齢者を取り巻く社会構造の変化、保険、医療、福祉の動向及び老年看護の なりたち・役割・責務について学ぶ。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の特徴を知り、高齢者のライフステージを理解する。 2. 老人保健の動向・医療・福祉対策・介護保険制度を理解する。 3. 高齢者施設における看護について理解する。 4. 老年看護のなりたちと役割・責務について理解する。 <p>授業計画:</p> <p>老いるということ、老いを生きるということ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化と寿命 2.-4.高齢者の生理的特徴 認知・知覚・呼吸・循環・消化・吸収・排泄・免疫・運動等の老化 5.6.老年期の発達課題 7.8.高齢者体験 <p>超高齢社会と社会保障</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 超高齢社会の統計的輪郭 10. 高齢社会における保健医療福祉の動向 保健医療副システムの構築・介護保険制度の整備 11.12.高齢者の権利擁護 虐待・拘束・成年後見制度 13. 高齢者施設における看護 高齢者を支える多職種連携と看護活動 14. 老年看護の成り立ち 老年看護の役割・理論・携わる者の責務 15. 終講試験 							<p>講義</p> <p>グループ ワーク</p> <p>高齢者体験</p>
評価方法 : 終講試験 90 点 生活史年表レポート 10 点							
テキスト : 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院							
講師紹介 : 専任教員 : 地域包括ケア病棟勤務経験有。							

学科目	老年看護援助論Ⅰ	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	今川 貴実子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的：ヘルスアセスメントを基に、高齢者の生活機能を整える看護及び高齢者に特有の症候のなりたちと回復を促す看護を学ぶ。また、検査や治療を必要とする高齢者の特徴と看護を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のヘルスアセスメントについて理解する。 2. 高齢者の生活機能を整える看護を理解する。 3. 高齢者に特有の症候と回復を促す看護を理解する。 4. 治療を必要とする高齢者の特徴と看護を理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のアセスメント 2. ヘルスアセスメントの基本 身体の高齢変化とアセスメント 3. 高齢者の生活機能を整える看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活を支える基本的活動 2) 食事・食生活を整える援助 3) 排泄ケア 4) 清潔ケア 4. 生活リズムを整える看護 5. 高齢者とのコミュニケーション 6. 症状・徴候のアセスメントと看護 発熱・痛み・かゆみ・脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡・スキンケア 7. るいそう・フレイル・サルコペニア・せん妄 8. 検査・治療を必要とする高齢者の看護 9. 検査を受ける高齢者の看護 10. 手術を受ける高齢者の看護 11. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院治療を受ける高齢者の看護 12. 終講試験 							講義 演習 グループ ワーク
評価方法：終講試験 90点 課題レポート 10点							
テキスト：系統看護学講座 老年看護学 第9版 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院							
講師紹介：専任教員 地域包括ケア病棟勤務経験有。							

学科目	老年看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	24	科目区分	専門分野
講師名	濱嶋 奈美					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>高齢者の疾患の特徴・機能障害・診断・治療を理解し、セルフケア能力を高めるための看護を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者総合機能評価（CGA）について理解する。 2. 高齢者のリハビリテーションについて理解する。 3. 認知症のある高齢者の看護を理解する。 4. 骨・筋系に障害のある高齢者の看護を理解する。 5. 感覚器系に障害のある高齢者の看護を理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2. 高齢者の総合機能評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) バイタルサイン・栄養評価・検査 2) CGAによる評価 3・4. 高齢者のリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃用症候群の予防 5. 転倒予防プログラム 6・7. 認知症の症状・診断・治療・看護 8・9. 骨格・筋系に機能に障害を持つ高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 2) パーキンソン症候群患者の看護 10・11. 感覚器系機能に障害のある高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚 2) 視覚 3) 耳鼻咽喉 4) 歯・口腔 12. 終講試験 							<p>講義</p> <p>演習</p> <p>グループワーク</p> <p>DVD</p>
評価方法：終講試験 80 点 課題レポート 20 点							
<p>テキスト：系統看護学講座 老年看護学 第9版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院</p>							
講師紹介：専任教員 療養病棟・回復期リハビリテーション、訪問看護など高齢者看護に多く携わっている。老年看護学、基礎看護学など看護教員としての実務も経験している。							

学科目	老年看護学演習	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	阿部 千栄子					学期	2年次後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>事例展開を通して、高齢者の生活背景・生活史に応じた QOL を考える。疾患や障害をもち生活する高齢者に対して、ADL の維持・向上及び ICF の思考を基に多職種連携における看護の役割を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を通して、高齢者のアセスメントができる 2. 対象の ADL の維持・向上や持てる力を引き出す援助が立案できる。 3. 大腿骨頸部骨折の高齢患者の病態が理解でき、看護が実施できる。 4. ICF の思考と多職種連携における看護の役割が理解できる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化と病態の理解 2. 情報整理とアセスメント 3. 全体像 4. 看護上の問題 5. 援助計画 6. 援助の実施と評価 7. ICF の思考と多職種連携における看護の役割 <p>7.5. 終講試験</p>							講義 演習 グループワーク
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 老年看護学 第9版 医学書院</p> <p>系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院</p>							
講師紹介：専任教員 療養病棟・回復期リハビリテーション、訪問看護など高齢者看護に多く携わっている。老年看護学、基礎看護学など看護教員としての実務も経験している。							

学科目	小児看護学概論	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	納 志緒里					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 小児看護の対象である「子ども」について理解し、子どもが健康に育つ過程とそのため必要な援助を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の特徴を理解し、健康な小児の成長・発達のプロセスを理解する。 2. 小児医療や看護の変遷について理解する。 3. 子どもの権利を理解する。 4. 小児各期の成長発達を生活の側面から理解する。 5. 子どもを取り巻く環境について理解する。(保健・福祉・行政) 6. 子どもの健康を支えるための看護の役割について理解する。 7. 健全な人間形成のための生活環境について理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～2. 小児看護の特徴と理念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の対象(子どもの特徴・子どもにとっての家族とは) 2) 小児看護の変遷 3) 小児看護における倫理と子どもの権利 4) 小児看護の目標と役割 3～9. 小児の成長発達と生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長発達の原則と影響因子 2) 発達段階と発達課題、成長発達の評価 3) 小児各期の成長発達と生行動作の獲得 4) 小児の栄養 発達段階別の小児栄養・食育 10～12. 小児と家族を取り巻く社会と諸問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の特徴とアセスメント 2) 法律と政策 3) 予防接種 4) 学校保健 5) 特別支援教育(発達障害) 13. GW 発表・演習(2コマ) 14. 終講試験 							講義 視聴覚教材 体験学習 課題学習 GW 発表(演習)
評価方法：終講試験(100点)							
テキスト：系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第14版 医学書院							
<p>講師紹介：専任教員</p> <p>看護師免許所得後は、療養病棟・産婦人科・小児科で病院勤務していた。大阪府保育士養成講習で講師として、子どもの保健を担当。コロナ禍では保健所にて市民・病院・救急隊からの受診相談・入院調整を担当。教員養成講習修了後は看護学校にて基礎・老年・小児・母性の実習引率、小児看護学概論・臨床看護学概論・基礎看護学の講義・演習の経験あり。</p>							

学科目	小児看護援助論 I	単位数	1	時間数	29	科目区分	専門分野
講師名	栗原 みな子 ・ 松川 泰廣					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的: 主な小児疾患の特徴と病態のメカニズム・診断及び治療について理解し、看護援助方法について考える。</p> <p>目標: 小児疾患の中でも小児領域に特異性や頻度の高い疾患について、その原因、診断、予後、治療を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p><栗原みな子:12回></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な小児疾患の理解 小児に特有な症状、小児に特異的な疾患 2. 出生前小児科学 新生児期の疾患 3. 血液・造血器疾患 悪性腫瘍疾患 4. 腎・泌尿器疾患 5. 脳・神経疾患 (神経系の先天異常～脳性麻痺まで) 6. 脳・神経疾患(神経皮膚症候群～筋疾患まで) 運動器疾患(先天性股間性脱臼～先天性筋性斜頸まで) 7. 運動器疾患 骨折等 脱水、浮腫について、精神疾患 8. 小児の代謝性疾患、内分泌疾患、特に先天性疾患を中心に講義 9. 小児の免疫性疾患、アレルギー性疾患、リウマチ疾患について講義 10. 小児の感染症 総論、ウイルス性感染症を中心に講義 11. 小児の感染症 細菌感染症、小児の呼吸器疾患主として呼吸器感染症について 12. 小児の循環器疾患 先天性心疾患を中心に講義 <p><松川 泰廣:2回></p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 14. 小児外科の日常疾患 <p>15. 終講試験</p>							講義
評価方法 : 終講試験(合算:100点)							
テキスト : 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第15版 2025年改訂 医学書院							
講師紹介 : 栗原 みな子:WAGON 専任講師 松川 泰廣:小児科医師							
備考 : 小児疾患について正しい知識を習得し理解することは、疾患によって健康を障害された子ども及びその家族に疾病の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促すために必要な援助を学ぶ前提になる。							

学科目	小児看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	26	科目区分	専門分野
講師名	栗原 みな子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的：健康障害をもち、様々な状況にある子どもの看護を学ぶ</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康障害が小児と家族に及ぼす影響と反応を発達段階に応じて理解する。 小児各期によく見られる症状を理解する。 健康障害をもつ小児に必要な援助を理解する。 健康障害をもち様々な状況にある子どもの看護について、倫理的側面、他職種、他機関を踏まえて学習し小児看護のあり方について理解する。 							
授業計画・内容							講義
<ol style="list-style-type: none"> 健康障害をもつ子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 病気に対する子どもおよび家族の理解と特徴 入院中と外来における子どもと家族の看護 特別な状況にある子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 虐待を受けている子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族の看護 子どもにおける疾病の経過と看護 <ol style="list-style-type: none"> 急性期・周手術期にある子どもの看護 慢性的な疾患のある子どもと家族の看護 終末期にある子どもと家族の看護 在宅療養を行う小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 心身障害のある子どもと家族への看護医療的ケアを必要として退院する子どもとその家族の看護 在宅看護の意義と看護師の役割・社会支援 子どもによく見られる症状の観察と看護 不機嫌・啼泣・発熱・発疹・呼吸困難・嘔吐・下痢・脱水・痙攣 子どものアセスメント アセスメントに必要な技術・身体的アセスメント 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 薬物動態と与薬時の援助：経口・座薬・注射・輸液療法 輸液管理：固定法と観察、抑制含む 検体採取：採血・採尿・吸引・骨髄穿刺・腰椎穿刺 入院中の清潔援助 呼吸症状の緩和吸入時の援助 救命処置 							VTR
							課題学習
							グループワーク
13. 終講試験							
評価方法：終講試験 100点							
テキスト：系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 2025年改訂 医学書院							
講師紹介：株式会社 WAGON 専任講師 看護師 助産師 新生児蘇生法 Bコース取得 産後ケア実務助産師研修終了							

学科目	小児看護学演習	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	納 志緒里					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的:健康障害をもつ患児と家族の看護を学ぶ。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康障害をもつ患児の特徴を説明できる。 子どもの発達段階に応じたアセスメントと援助について理解する。 事例展開を通して、健康障害をもつ患児と家族の看護を理解する。 子どもの成長・発達を促す関わりの重要性和家族に対する看護の必要性について説明できる。 基本的な小児看護技術を習得する。 <p>授業計画・内容</p> <p>1～4. 健康障害をもつ患児の看護過程の展開 気管支喘息・川崎病</p> <p>5. グループワーク、発表準備</p> <p>6～7. 小児看護技術演習・グループ発表</p> <p>Ⅰ:発達段階・疾患・看護問題・優先順位・看護方針発表</p> <p>Ⅱ:看護計画・小児看護技術の発表、演習</p> <p>① 身体計測とバイタルサイン測定 (体重、身長、体温、呼吸、心拍、血圧、聴診、問診、観察)</p> <p>② 与薬、拒薬時の看護・プレパレーション</p> <p>③ 吸入・吸引・採血・プレパレーション</p> <p>④ 静脈内輸液点滴の固定法、輸液中の観察、輸液中の日常生活援助</p> <p>7.5 終講試験</p>							講義 グループワーク 発表 演習 課題学習
評価方法：終講試験(100点)							
テキスト：系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 医学書院 系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版 医学書院							
講師紹介：専任教員、療養病棟・産婦人科・小児科で病院勤務経験あり。 大阪府保育士養成講習で講師として、子どもの保健を担当。 コロナ禍では保健所にて市民・病院・救急隊からの受診相談・入院調整を担当。 教員養成講習修了後は看護学校にて基礎・老年・小児・母性の実習引率、 小児看護学概論・臨床看護学概論・基礎看護学の講義・演習の経験あり。							
備考：看護過程演習では、事例を基に個人で展開し、グループワーク学習を進める。 看護技術は、援助計画を立案し演習する。							

学科目	母性看護学概論	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	中川 明子					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的:母性看護の意義と役割を理解する。</p> <p>目標 1. 母性看護の対象の特徴を理解する。</p> <p>2. 人間の性と生殖の意義を理解する。</p> <p>3. 母子関係の成立、母児愛着について理解する</p> <p>4. 母性看護の動向と対策を理解する。</p> <p>5. 生命の尊厳や生命倫理について考える。</p> <p>6. ライフサイクル各期の特徴と看護について理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1. 母性とは、心理社会的意味</p> <p>2. 母性をめぐる定義、母子関係母児愛着</p> <p>3. セクシャリティ(人間の性)の文化と発達</p> <p>4. リプロダクティブヘルス・ライツ、ヘルスプロモーション</p> <p>5. 母性看護の歴史的変遷と現況</p> <p>6. 母性保健統計</p> <p>7. 母性看護に関連する組織と法律</p> <p>8. 母性看護の対象の理解</p> <p>9. 女性のライフサイクルと家族</p> <p>10. ライフサイクル各期における女性の健康と看護</p> <p>11. 12. グループワーク</p> <p>① 性感染症と看護</p> <p>② HIVに感染した女性の看護</p> <p>③ 人口妊娠中絶と看護</p> <p>④ 喫煙と女性の看護</p> <p>⑤ 性暴力を受けた女性の看護</p> <p>グループワーク発表</p> <p>13. 国際看護</p> <p>14. 終講試験</p>							講義 G W DVD
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版 医学書院							
参考文献：国民衛生の動向							
講師紹介：専任教員、助産師。病院・助産院・保健センター勤務経験あり。							
実習指導者又は指導教員として助産学生、看護学生指導。専門分野:母性看護学							

学科目	母性看護援助論 I	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	大山 晴美					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥の生理と正常の経過を理解し、妊産褥婦の看護を学ぶ。 2. 新生児の生理を理解し、新生児の看護を学ぶ。 3. 母子相互作用の視点から看護の重要性について学ぶ。 <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥の生理と経過を理解し、基本的援助方法を理解する。 2. 新生児の生理を理解し、基本的援助方法を理解する。 3. 母子相互作用について理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供を生み育てること、命の出会い(受精・妊娠の成立) 2. 不妊治療と看護について 3. 正常な妊娠期の身体的特徴・心理・社会的変化について 4. 妊婦と家族の看護について 5. 分娩3要素・分娩機序について 6. 分娩経過・診断方法・分娩進行に伴う身体的変化・心理的变化について <ol style="list-style-type: none"> ①(分娩第1～2期) 7. 分娩経過・診断方法・分娩進行に伴う身体的変化・心理的变化について <ol style="list-style-type: none"> ②(分娩第3～4期) 8. 正常な分娩期における母児の看護について 9. 正常な産褥期の生理的・心理的・社会的変化について 10. 正常な産褥経過のアセスメントと褥婦の看護について 11. 母乳育児・母児の愛着形成について 12. 正常新生児の生理的变化・アセスメントについて 13. 正常新生児の看護・2週間健診・1ヶ月健診について 14. 終講試験 							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論、第14版 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、医学書院							
講師紹介：助産師 ほたる助産院 院長							

学科目	母性看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野
講師名	北方 直美					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器に発生する疾患の病因・病態・症状・診断・検査・治療・予後などについて学び、看護実践の観察力・判断力の根拠にする。 2. 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常、妊婦・産婦・産婦および胎児・新生児に起こる問題について理解し、医学的対応、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。 <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期・成熟期・更年期・老年期に起こるやすい女性生殖器疾患の特徴と治療を理解する。 2. ハイリスク妊娠、要因、ハイリスク妊婦の看護について理解する。 3. 分娩の3要素に見られる異常、胎児付属物の異常、分娩時の損傷、産科処置・手術に伴う問題について理解する。 4. 新生児の異常とその診断・アセスメント、医学的管理、看護を理解する。 5. 子宮復古不全、発熱、産褥期の精神症状など、産褥期の問題とその看護について理解する。 <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器系に障害がある対象の看護について <ol style="list-style-type: none"> ①診察・検査と治療・処置 ②疾患の産婦の理解(外陰・子宮・乳房・乳房疾患) ③疾患の理解(卵管・卵巣・月経異常・更年期障害) ④疾患の理解(骨盤腹膜・骨盤結合組織・感染症疾患) ⑤疾患の理解(不妊症・不育症・避妊) 6. 妊娠・分娩・産褥・新生児における異常について <ol style="list-style-type: none"> ①妊娠期の異常(ハイリスク妊娠) ②妊娠期の異常(合併妊娠・妊娠中の疾患) ③分娩の異常(産道・娩出力・娩出物の異常) ④分娩期の異常(分娩Ⅲ期直後の異常・産科処置と手術) ⑤早期新生児の生理・アセスメントと異常 ⑥産褥の異常 ⑦乳房トラブル 14. まとめ 15. 終講試験 							講義 プリント VTR
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 第16版 2025年改訂 医学書院 系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論第14版 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 医学書院</p>							
講師紹介：助産師 菊池レディスクリニック勤務							

学科目	母性看護学演習	単位数	1	時間数	28	科目区分	専門分野
講師名	宮崎 貴子					学期	2年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>1. 妊産褥婦及び新生児の看護に必要な看護技術を理解し、習得する。</p> <p>2. 褥婦と新生児の看護過程を学び、知識・技術の統合を図り、看護として解決すべき問題や現象の問題解決能力を養う。</p> <p>目標</p> <p>1. 妊産褥婦及び新生児の看護に必要な基本的看護技術を習得する。</p> <p>2. 褥婦の看護過程の展開に必要な知識と方法を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1. 妊産婦の診察時の看護技術について</p> <p>①妊婦健診時の諸計測(腹囲・子宮底測定)</p> <p>2. ②骨盤外計測・レオポルド触診法</p> <p>3. ③胎児心拍測定・陣痛測定</p> <p>4. 妊婦体操と補助動作と妊婦・褥婦の乳房ケア</p> <p>5. 分娩期の看護技術について</p> <p>①分娩促進のための援助(産通緩和・呼吸法・マッサージ法)</p> <p>6. 褥婦の看護技術について</p> <p>①子宮復古状態の観察と促進の援助</p> <p>7. 新生児の看護技術について</p> <p>①新生児のバイタルサイン測定と身体計測</p> <p>8. 9 ②沐浴</p> <p>10. 褥婦・新生児の看護過程について</p> <p>①正常褥婦の看護過程</p> <p>11. ②帝王切開褥婦の看護過程</p> <p>12. ③正常新生児の看護過程</p> <p>13. ④褥婦・新生児の関連図作成</p> <p>14. 終講試験</p>							演習
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 医学書院							
講師紹介：専任教員、助産師。産婦人科病棟で長期にわたる勤務経験あり。実習指導者又は指導教員として助産学生、看護学生指導。専門分野:母性看護学							

学科目	精神看護学概論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	亀井 さやか					学期	1年後期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>・精神保健の動向や精神保健福祉法の変遷と施策、精神の健康の概念を理解し、精神の健康に関する普及啓発活動について理解する。また、精神の働きや人間のライフサイクルにおけるこころの健康について学び、精神の健康とマネジメントについて理解することで、精神看護学における看護の目的を理解する。</p> <p>目標</p> <p>1. 最近の精神保健の動向や精神保健福祉法の変遷と施策、精神の健康概念を理解する。</p> <p>2. 精神の働きや人間のライフサイクルにおけるこころの健康について理解する。</p> <p>3. 精神看護学における看護の目的を理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1. 社会情勢と精神障害者への精神保健活動について理解する 精神保健活動における世界と日本の動向の比較</p> <p>2. 精神障がいと「日本における現実の問題」</p> <p>3. 国際生活機能分類(ICF)の考え方と活用方法 精神保健医療福祉法成立の背景</p> <p>4. 精神保健活動の展開について 1) ストレスマネジメント 2) 地域における精神保健</p> <p>5. 3) 精神の健康の保持・増進 ① ストレスと適応 ②精神科以外での精神看護(リエゾン精神看護)</p> <p>6. 精神保健福祉法と総合支援の活用 1) 精神障害者の処遇の歴史 2) 精神保健福祉法の理念</p> <p>7. 3) 精神障害者と総合支援</p> <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版 医学書院</p> <p>精神看護学[2] 精神看護の展開 第6版 医学書院</p> <p>国民衛生の動向</p>							
講師紹介：光愛病院勤務 病棟主任、精神科認定看護師							
<p>備考：精神の発達と健康は心理学、カウンセリング理論と関連させて学習</p> <p>精神保健活動の展開は、公衆衛生、災害看護と関連させて学習</p>							

学科目	精神看護援助論 I	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	山岸 洋					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 精神障害の特徴・症状・検査・治療についての基本的知識を学び、対象の理解を深める。</p> <p>目標 1. 精神障害の原因、分類について理解する。 2. 精神疾患を理解する。 3. 精神疾患の診断、検査、治療について理解する。</p> <p>授業計画 1. 精神障害の考え方 1)神経科医療の全体像 2)精神障害の原因、分類</p> <p>2. 精神疾患の理解 1)精神症状および状態像 意識障害、知能の障害、記憶の障害、知覚領域の障害、思考の障害</p> <p>3. 感情の障害、意欲、行動の障害、自我意識の障害、神経心理学的症状</p> <p>4. 神経衰弱状態、うつ状態、躁状態、幻覚妄想状態、錯乱(せん妄)状態、意欲減退状態、慢性退行状態</p> <p>5. 精神疾患の診断、検査、治療 1)精神障害の診断の検査 ①診断の基礎:観察、問診 2)検査:神経学的検査、心理検査(知能テスト、性格検査)</p> <p>6. 精神障害の治療 1)薬物療法、2)精神療法</p> <p>7. 主な精神疾患 1)統合失調症気分 2)気分障害依存症 3)依存症(アルコール、薬物) 4)神経症</p> <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎 第6版 医学書院 精神看護学[2]精神看護の展開 第6版 医学書院							
講師紹介：神経精神科医							
備考：精神障害の原因、分類は医学概論と関連づけて学習する。 精神疾患の理解は、カウンセリング理論、心理学、公衆衛生と関連づけて学習する。 精神の機能は脳の機能と関連づけて学習する。							

学科目	精神看護援助論Ⅱ	単位数	1	時間数	27	科目区分	専門分野
講師名	竹内 哲夫・南埜 文					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障がい者を理解し、治療的人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ。 ・状態に応じて自立を支援できるような援助方法を学ぶ <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の特徴、目的、役割を理解する 2. 精神看護における治療的環境について理解する 3. 精神障害を持つ人の看護について理解する <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がい者の日常生活行動の特徴と治療環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護とは 2) 精神科に入院すること 3) 精神科病棟の特徴 4) 治療的環境 2. 症状・状態別看護 <ul style="list-style-type: none"> ・不安・睡眠障害のある患者の看護 ・幻覚・妄想がある患者の看護 3. <ul style="list-style-type: none"> ・抑うつ状態にある患者の看護 ・躁状態にある患者の看護 4. <ul style="list-style-type: none"> ・強迫行為・儀式的動作のある患者の看護 ・不信感のある患者の看護 5. <ul style="list-style-type: none"> ・拒否・否定的な患者の看護 ・攻撃的行動がある患者の看護 6. <ul style="list-style-type: none"> ・昏迷状態にある患者の看護 7. <ul style="list-style-type: none"> ・依存的傾向にある患者の看護 8. <ul style="list-style-type: none"> ・境界型パーソナリティ障害患者の看護 ・操作行動がある患者の看護 9. <ul style="list-style-type: none"> ・摂食障害がある患者の看護 10. <ul style="list-style-type: none"> ・てんかんのある患者の看護 11. <ul style="list-style-type: none"> ・多飲水のある患者の看護 12. <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のある患者の看護 13. <ul style="list-style-type: none"> ・譫妄状態にある患者の看護 13.5 終講試験 							講義
評価方法：終講試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版 医学書院</p> <p style="padding-left: 200px;">精神看護学[2]精神看護の展開 第6版 医学書院</p>							
<p>講師紹介</p> <p>竹内 哲夫：医療法人清風会茨木病院 看護師 副主任</p> <p>南埜 文：医療法人清風会茨木病院 看護師 副主任</p>							

学 科 目	精神看護学演習	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	安齋匡代					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目 的</p> <p>精神障害者の看護過程を展開し、精神を病む人の健康水準や精神症状に応じた看護を理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神障害者の看護過程の展開(問題解決過程)が理解する。 2.統合失調症患者のアセスメントと援助について理解する。 3.患者—看護師関係の発展過程の対応について説明できる。 4.効果的なコミュニケーション技術と自己理解について説明できる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害者の問題解決過程・精神障害者のアセスメントの視点 2. 事例:「統合失調症患者」看護過程の展開 <ul style="list-style-type: none"> 精神症状が日常生活行動におよぼす影響を考える ライフサイクル、精神状態像、治療が関連した全体像の理解 3. 4. 5. 看護問題の抽出と看護計画立案 6. 看護計画とロールプレイング 動画撮影 7.看護計画とロールプレイングの発表 7.5 終講試験 							
評価方法：終講試験 課題							
<p>テキスト：系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版 医学書院</p> <p>精神看護学[2] 精神看護の展開 第6版 医学書院</p>							
<p>講師紹介：専任教員。</p> <p>高度先進医療機関での臨床経験、地域～病院までの全専門領域の実習指導。</p> <p>基礎看護学では全科目の講義・演習を担当した実務経験がある。</p> <p>精神病院での勤務経験もあり、看護教員の経験も持つ。</p>							

学科目	臨床判断	単位数	1	時間数	30	科目区分	専門分野 領域横断
講師名	村上 未恵・納 志緒里・中川 明子・安齋匡代					学期	2年次前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>1 年次の基礎看護学で学んだ看護過程、フィジカルアセスメントを振り返りながら、あらゆる健康の段階、生涯発達における対象の身体の状態を診査する手技を獲得し、その経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、各手技を用いて対象に何が起きているのかをアセスメントするための技術を習得する。また、看護師が臨床推論と臨床判断を行い、看護実践へ活かす必要性和その具体的方法を学ぶことができる。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床推論・判断を行う意義と重要性について説明できる。 2. 対象の成長・発達の段階を考慮した基本的なフィジカルイグザミネーション技術を、正確かつ安全・安楽に実施できる。 3. フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正しく表現できる。 4. 得られた情報に基づいて、対象者に起こっていること・起こりうることを臨床判断を用いてアセスメントし、科学的根拠をもとに必要な看護援助を考えられる。 5. 得られた情報を正しく報告・記録することができる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床推論・臨床判断とは何かを学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床判断のための推論思考～問題発見・解決のための論理的思考 2. 2) 臨床判断のための推論の方法 ～段階的思考過程について～ 3. 臨床判断のための知識と技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) インタビュー（問診）とアセスメント 2) バイタルサインの生理とアセスメント① 意識・呼吸 3) バイタルサインの生理とアセスメント② 血圧・脈拍・心拍・体温・尿 4. フィジカルイグザミネーションとアセスメント① 呼吸・循環・神経 フィジカルイグザミネーションとアセスメント② 頭頸部・体表面 5. 症状とアセスメントを学ぶ前に共通理解しておく知識 6. アセスメントにつながる臨床検査に関わる基本的知識 7. 緊急度と重症度の臨床判断と報告、客観的情報伝達～ISBARCとSOAP 8.～10. ケアの選択と根拠を考える（客観的理由付け） 11. まとめ【振り返り問題】 12. 精神看護領域に関する臨床判断 13. 小児看護領域に関する臨床判断 14. 母性看護領域に関する臨床判断 15. 終講試験 							<p>講義</p> <p>視聴覚教材</p> <p>協同・ 演習 学習</p> <p>事例を基にアセスメントの視点を確認しながら、対象へのフィジカルイグザミネーションとアセスメントの方法を考え、実践し、報告することができる。</p> <p>演習記録での評価と、実践後のリフレクションを行う。</p>
評価方法：筆記試験							
<p>テキスト：系統看護学講座 専門Ⅰ基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②、臨床看護総論 看護技術プラテクティス 竹尾恵子監修 第3班動画付 学研メディカル秀潤社 看護がみえる フィジカルアセスメント メディックメディア</p>							
<p>講師紹介：病棟・外来にて主任看護師として勤務。回復期リハビリ、リウマチ病棟、整形外科病棟、外来勤務経験あり。急性期看護、回復期看護、免疫疾患治療に携わる。</p>							

学科目	健康支援論	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野 領域横断
講師名	関口 敏彰					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>看護師が国民の健康について考え、対象とする人の健康支援のあり方やその理論および技術について学ぶ。</p> <p>目標</p> <p>看護の対象者の健康支援に必要となる理論や技術を理解する。 対象特性に応じた健康課題を解決する支援について考えることができる。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回:健康支援で用いる理論と技術【KAPモデル、ヘルスピリーフモデル】 第2回:健康支援で用いる理論と技術【自己効力感】 第3回:健康支援で用いる理論と技術【行動変容ステージモデル】 第4回:対象特性に応じた健康支援の実際【成人期】 第5回:対象特性に応じた健康支援の実際【高齢期】 第6回:対象特性に応じた健康支援の実際【小児期】 第7回:まとめ 第7.5回:終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：授業時に適宜紹介する							
参考図書：医療・保健スタッフのための 健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版 2002							
講師紹介：行政保健師として勤務後、現在は森ノ宮医療大学看護学部にて公衆衛生看護学の授業・研究を担当。1年次後期の公衆衛生学で学ぶ健康課題に対する支援方法とその実際について話をします。							

学科目	薬物療法と看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野 領域横断
講師名	森山ゆかり・松本順子・濱嶋奈美・納志緒里 宮崎貴子・安齋匡代					学期	2年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>人体に薬物が及ぼす影響をふり返り、主な疾病・健康の状態、発達段階における主となる薬物療法を取り上げ、アドヒアランスの向上に向けた看護について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の行う薬物療法について理解することができる。 2. 医薬品の特徴と患者への適応についてアセスメント、説明することができる。 3. 薬の取り扱いに限らず、看護場面での患者への説明や問診の技術を修得できる。 4. 各領域における特徴的な薬剤の理解と服薬指導方法がわかる。 5. 薬物療法を受ける対象への心理的なかわり方がわかる。 6. 得られた情報を正しく報告することができる。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法の復習 薬物療法における看護師の役割(入院前・中・後での看護師の役割) 取り扱い、その評価方法、報告までの一連の流れについて 2. 対象に応じた薬物療法の視点(老年・小児・妊産婦) 3. 成人の疾患に応じた薬物療法とその指導(化学療法・免疫抑制療法・抗血栓療法ほか) 4. 高齢者の疾患に応じた薬物療法とその指導(心不全・認知症) 5. 在宅における薬物療法援助の実際 6. 妊産婦・新生児、小児への薬物療法と服薬指導の実際 7. 精神看護学における薬物療法の実際とその指導 (統合失調症・気分障害・薬物依存症/起こりやすい副作用とその評価方法) 7.5 終講試験 							<p>講義</p> <p>視聴覚教材 デモンストレーション</p> <p>事例を基にアセスメントの視点を確認しながら、対象へ介入方法を考え、実践し、報告することができる。</p>
評価方法：筆記試験							
テキスト：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院							
講師紹介 専任教員							

学科目	看護の総合実践 I	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	中村 敏代					学期	2 年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>看護の統合と実践 I は基礎看護学、専門基礎分野で学んだ内容を統合し、対象事例の状況に合わせた日常生活援助と診療補助を実践する技術演習を行う。また、看護実践力の基礎となる知識と技術と態度とはどのようなものか考え、臨床の場における自己の課題を明らかにする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合する科目・内容を理解する。 2. 看護実践に求められる看護技術とはどのようなものか考える。 3. 対象事例の病態・治療・検査・処置を理解する。 4. 対象事例の日常生活の変化を理解する。 5. 看護実践に必要なアセスメント視点・技術のポイントを理解する。 6. 対象事例の状況に応じた方法を選択し看護実践する。 <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全・安楽な看護実践に必要な技術を援助場面から考える。 2. 対象事例の提示 3. 対象事例のフィジカルアセスメント（呼吸・循環） 治療・検査・処置 4. 看護（日常生活援助・診療補助技術・コミュニケーション・感染予防） 5. 技術評価の 2 事例について、統合に必要な技術の部分演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 異常呼吸音（副雑音）の聴取 2) 動脈触知と A B I の測定 3) 輸液ラインの安全な管理 4) 体位・リネンがくずれている場合の体位調整・リネンの整え方 5) 輸液ライン挿入中の対象の和式寝衣の交換 6. 設定状況を踏まえた 4 - 1) ~ 5) を統合した技術演習 7. 基礎看護技術の統合と実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 輸液ライン挿入中の対象の寝衣交換（和式寝衣） 2) 酸素療法、持続点滴中の臥床患者の病床環境整備・体位の調整 3) 上記 1) 2) を制限時間内に安全・安楽に実施する。 <p>7.5 終講試験</p>							<p>講義</p> <p>個人ワーク グループワーク</p> <p>講義 演習</p> <p>デモンストレーション</p> <p>技術評価</p>
評価方法：筆記試験 50 点 技術評価 50 点							
<p>参考図書：系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 成人看護学 [2]呼吸器、[3]循環器、医学書院。 看護技術プラクティス 3、竹尾恵子監修、学研 ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 基礎看護学②、メディカ出版 ナーシンググラフィカ 基礎看護技術 基礎看護学③、メディカ出版 フィジカルアセスメントガイドブック 山内豊明、医学書院 その他</p>							
講師紹介：高度先進医療機関（心臓血管外科・内科）での臨床経験、教育歴：地域～病院までの全専門領域の臨地実習指導経験、成人（急性期）・在宅の講義、基礎看護学では全学科目の講義・演習を担当した実務経験がある							

学科目	看護の統合と実践Ⅱ	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	松本 順子					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>診療補助技術、日常生活援助技術における安全に関する知識をもとに、複数事例及び制限時間内での看護実践、対処方法についてシミュレーション学習を行い、チーム医療における、正しい判断と安全・安楽な看護実践について考えられる。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床における事故防止に向けた状況判断と実施に向けた知識を理解する。 2. 診療の補助技術におけるエラー発生状況下での安全な行動がとれる。 3. 対象に応じた援助について優先順位と時間配分を考え、正確かつ適切な時間内に実施する。(シミュレーション) 4. 臨床での看護実践に必要な知識、技術、態度について課題を考える。 <p>授業計画</p> <p>看護における安全を考える課題と実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における多重課題とは <ul style="list-style-type: none"> ・多重課題解決方法について 2. 事例で学ぶヒヤリ・ハット <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全ワーク <p>複数事例の優先順位・時間配分を考える課題と実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 事例紹介 4. 全体像の把握・タイムスケジュール立案 <p>看護技術の統合・臨床を踏まえた看護実践(シミュレーション)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 技術評価－実施要領の説明 6・7. シミュレーション(グループ単位での OSCE) <p>7.5. 終講試験(筆記試験)</p>							<p>講義</p> <p>DVD 視聴</p> <p>グループワーク</p> <p>シミュレーション</p> <p>技術評価</p>
評価方法：筆記試験 50 点 技術評価 50 点							
<p>参考図書：医療安全ワークブック、川村治子、医学書院</p> <p>フィジカルアセスメントガイドブック 山内豊明、医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 仁和子監修、医学書院</p> <p>看護技術プラテクトイス 竹尾恵子監修 第3班動画付 学研メディカル秀潤社 その他</p>							
<p>講師紹介：専任教員。専門領域：成人看護学。</p> <p>公的医療機関である大阪府指定がん診療拠点病院に勤務。小児・成人・老年期を対象とする一般内科・外科病棟勤務に就き、現任教育・実習指導教育・医療安全などの看護管理にも携わっていた。</p>							

学科目	看護管理	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	田中 幸恵					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 看護管理の実際を学び、自己の看護業務が組織全体の中でどのように機能しているかを理解し、責任ある行動がとれる。</p> <p>目標 ・看護におけるマネジメントの基礎的知識が理解できる ・看護職一人ひとりが提供する看護ケアに必要なマネジメントについて考察できる ・看護職のキャリアマネジメントを学び自己のキャリア形成について考察できる ・看護サービスのマネジメントの目的と組織目的達成のための提供のしくみについてその概要・必要性を理解できる ・マネジメントに必要な知識と技術について学びその必要性について理解できる ・看護を取り巻く諸制度について理解できる ・看護ケアや看護サービスに必要なマネジメントについて看護管理者の視点で考察できる</p> <p>授業計画 1. 看護とマネジメント (看護管理の定義・マネジメントの場・マネジメントの考え方の変遷等) 2. ケアのマネジメント (看護職の機能、患者の権利、安全管理・感染管理、看護職の協働・他職種との協働等) 3. 看護サービスのマネジメント (組織目的達成のマネジメント、看護サービス提供方式、人材のマネジメント情報のマネジメント、サービスの質評価) 4. 看護職のキャリアマネジメント (看護職のキャリア形成、タイムマネジメント、ストレスマネジメント) 看護を取り巻く諸制度 (看護職の定義、看護職と法制度、職業倫理と法的責任、教育制度、医療制度) 5. マネジメントに必要な知識と技術 (マネジメントプロセス、リーダーシップとマネジメント、組織の調整) 6.7.実習で体験したことを看護管理と結びつける 実習での体験・視聴覚教材から、看護管理者の役割をグループで考察・発表 7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							GW 発表
テキスト：系統看護学講座 看護管理 第11版 2024年改訂 医学書院							
講師紹介：専任教員：助産師 アドバンス助産師認証 看護部長経験有 医療安全管理者研修終了							

学科目	医療安全	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	小塚 清美・林 智也					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的 倫理観・責任感に基づき、医療安全に関する知識・技術の習得及びチームや組織の一員として医療安全活動に積極的に取り組む基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とは何か、看護師の責務について理解できる エラーを起こすメカニズムについて理解できる 2. 組織的な医療安全管理体制、医療事故・インシデント報告の意義について理解できる 3. 投与業務の特性からみた事故防止の視点について理解できる 4. 転倒転落・患者誤認事故の発生要因と事故防止の具体的な方法について理解できる 5. 事例を通して医療事故の分析を行い具体的な対策を考えることができる <p>授業計画</p> <p>小塚 清美 11時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とは（医療安全の動向について、ヒューマンエラー、医療安全と看護師の責務）、コミュニケーションエラーの防止 2. 組織的な安全管理体制への取り組み （医療安全文化の醸成、医療安全管理体制整備、医療事故・インシデントレポートの分析・活用） 3. 診療の補助の事故防止（薬剤、誤薬、ドレーン管理） 4. 療養上の世話の事故防止（転倒転落・誤嚥窒息・患者誤認） 5. 事故分析 GW「医療事故シナリオ分析と対策立案」、発表 <p>林 智也 4時間</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 感染管理とは 7. 医療施設における感染管理 <p>7.5 終講試験</p>							講義
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全 第5版 医療安全 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 2							
講師紹介 行岡病院 看護師 医療安全管理者 行岡病院 認定看護師 感染管理者							

学科目	災害看護・国際看護	単位数	1	時間数	15	科目区分	専門分野
講師名	藤原由子					学期	3年前期
科目目標・内容							方法
<p>目的</p> <p>国境を越えて広がる感染症・自然環境問題、またはそれに伴う大規模災害は今や、一国で解決することは困難であり、グローバルな課題として捉えていかなければならない。人道支援の原則のもとに災害時は、活動場所・災害サイクル・対象者のニーズに合わせた援助を行うことが看護職者に求められている。このようなグローバルな視点と、災害看護学・国際看護学の基本的知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療に関する基礎知識・災害サイクル各期の特徴・被災者の特性を学び、減災・防災を目的とした、看護師の果たすべき役割を理解する。 2. 諸外国の多様な社会・文化・習慣と国際社会における平和や健康を脅かす現状を知り、国際看護学の基礎知識とグローバルヘルス(地球規模の健康)を意識した活動の実際を理解する。 <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去の災害の歴史と災害医療体制の変化、災害医療の基礎知識(CSCATTT・災害の種類・それに伴う傷病や健康被害) 2. 災害急性期・亜急性期における医療と看護 3. 災害慢性期における医療と看護 4. 静穏気における看護として平時の備えの理解 5. 災害時の心のケアと被災者の特性の理解・災害関連法規 6. 地震災害看護の展開(事例を通して机上シミュレーション) 7. ① 開発途上国を支援する国際協力のしくみである政府開発援助(ODA)の活動の理解 ② 世界三大感染症、貧困による健康問題と日本の医療と看護が果たす役割の理解 ③ 国際看護活動の実際と文化を考慮して看護の視点 ④ SDGsの理解と国際協力における今後の課題 <p>7.5. 終講試験</p>							<p>講義</p> <p>グループワーク</p> <p>発表</p> <p>講義</p>
評価方法：終講試験							
テキスト：系統看護学講座 統合分野 看護統合と実践【3】 災害看護学・国際看護学 第5版 医学書院							
講師紹介：北野病院 看護師長							